

保線材料及器具機械

材料名稱	現在	數	所在地
軌條	三十四呎(六十磅)	1,000本	停車場内
枕木	普通	5,000本	停車場内
	ポイント用	3,000本	、
	橋梁用	1,000本	、
砂利		3,000ヤ	停車場附近
石材		10,000切	、
器具機械名稱	現在	數	所在地
杭打器械		一〇座	倉庫
ブロンク		五〇個	、
シヨベル		一〇個	、
ジャック、トラベリグ		五個	、

備考 線路ニ要スル材料ハ軌條、枕木、砂利、鐵材、石材、煉瓦、セメント等重ナルモノヲ記載ス
ヘシ
保線材料及器具機械ハ表記ノ外末尾ニ其ノ他一切所屬ノ旨ヲ記載スヘシ

○逓信省令第三十八號

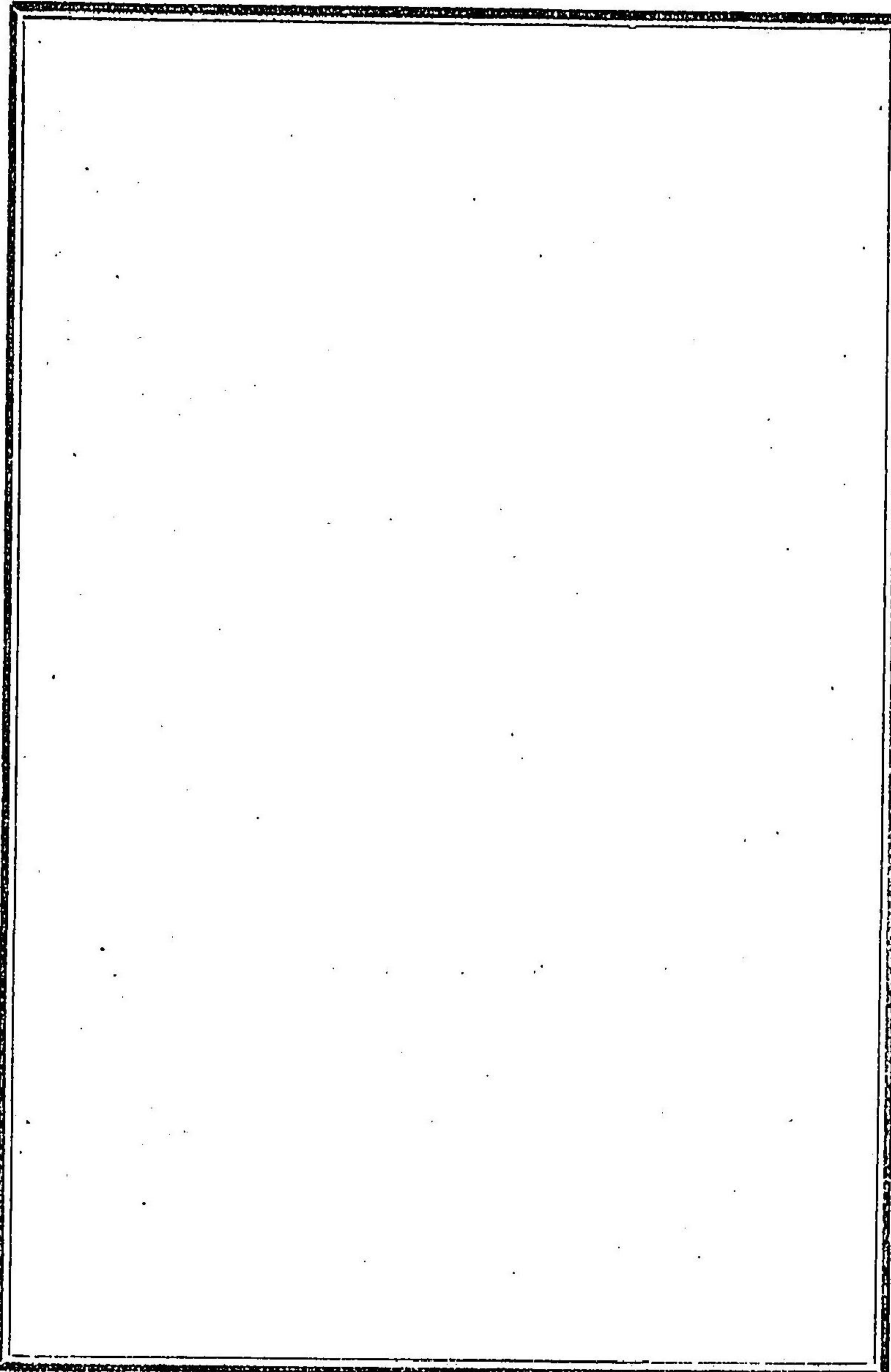
明治三十三年九月逓信省令第五十七號外國郵便爲替規則中左ノ通改正シ來七月一日ヨリ施行ス

明治三十八年五月三十日

逓信大臣大浦兼武

一 第七條中香港及其ノ媒介爲替(海峽殖民地ニ振宛)ノ爲替料ニ關スル項中(海峽殖民地ニ振宛)ヲ削ル

一 同條中香港媒介爲替中海峽殖民地ニ振宛ツルモノノ爲替料ニ關スル項ヲ削ル



○内務省令第十四號

明治三十年内務省令第十一號傳染病豫防法施行規則中左ノ通改正ス

明治三十八年六月十三日

内務大臣子爵芳川顯正

第三條中又ハ傳染病ノ下ニ「患者死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑ヲ加フ」
 第四條 市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ傳染病患者死者其ノ他病毒汚染ノ事實アルコトヲ知リタルトキハ速ニ傳染病患者死者アリタル家其ノ他病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ清潔方法消毒方法ヲ施行セシメ「ベスト」病ナルトキハ特ニ鼠族ノ驅除ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第五條中「又ハ隔離病舎ニ入ラシメ健康者ヲ隔離所」ヲ隔離病舎又ハ相當ノ設備アル病院ニ改ム

第六條 警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ虎列刺、赤痢、發疹室扶私、「ベスト」ニ對シ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得

- 一 患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若クハ入舎セシメ又ハ患者治療若クハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ其ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコト
- 二 前號ノ外病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ハ消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ交通ヲ遮斷スルコト
- 三 前二號ノ家ノ居住者其ノ他病毒感染ノ疑アル者ヲ消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ左ノ日時間隔離所若クハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト

虎列刺、赤痢 滿五日間

發疹室扶扶

滿七日間
「ベスト」
滿十日間

四 交通遮斷又ハ隔離中新ニ患者ヲ發シタルトキハ更ニ本條ニ依リテ處置スルコト
傳染病豫防法第十九條第二ニ依ル交通遮斷及隔離ノ施行ハ警察官吏又ハ檢疫委員ニ於テ前項ニ
準シ之ヲ行フヘシ但特ニ府縣知事(東京府ハ)ノ命アル場合ニ限ル

市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ警察官吏又ハ檢疫委員ノ指示ヲ受ケテ本條ノ交通遮斷及隔離
ニ關スル事務ニ従事スヘシ
第十條中「檢診ヲ健康診斷及死體檢案又ハ鼠族其ノ他ノ檢査ニ改ム

附則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

- 内務省令第十一號傳染病豫防法施行規則(明治三十一年五月一日)抄録
- 第三條 警察官吏又ハ檢疫委員傳染病豫防法第三條又ハ第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病アルコトヲ知りタルトキハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ニ通報スヘシ但警察署長又ハ分署長ヨリ府縣廳(東京府ハ)ニ報告スヘシ
前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷セシムルコトヲ得
- 第四條 市町村長區長戸長又ハ豫防委員第二條ニ依リ傳染病ノ届出又ハ通報ヲ受ケ又ハ傳染病アルコトヲ知りタルトキハ直ニ其ノ家ニ臨ミ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏區長又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ従事スヘシ
- 第五條 市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ豫防上必要ト認ムルトキハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシメ健康者ヲ隔離所ニ入ラシムヘシ但警察官吏衛生官吏區長又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ従事スヘシ
- 第六條 警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條又ハ第十九條第二ニ依リ左ノ日時間交通ヲ遮斷スルコトヲ得但第十

九條第二ニ依リ交通ヲ遮斷スルハ特ニ府縣知事(東京府ハ)ノ命アル場合ニ限ル

戒列刺

赤痢

患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院者クハ入舎セシメ又ハ患者治癒者クハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ滿五日間

發疹室扶扶

患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院者クハ入舎セシメ又ハ患者治癒者クハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ滿七日間

「ベスト」

患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院者クハ入舎セシメ又ハ患者治癒者クハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ滿十日間但傳染病豫防法第十九條第二ノ場合ニ於テハ尙十日以内繼續スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ警察官吏又ハ檢疫委員ノ指示ヲ受ケテ交通遮斷ニ關スル事務ニ従事スヘシ

第十條 府縣知事(東京府ハ)市町村ノ醫師ヲシテ傳染病豫防法第十九條第一ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得

○内務省令第十五號

明治三十年内務省令第二十號船舶檢疫規則中左ノ通改正ス

明治三十八年六月十三日

内務大臣子爵芳川顯正

第二條第二項中「船舶」ノ下ニ其ノ他傳染病毒ニ汚染ノ虞ナキ船舶ヲ加フ
第四條第一項中「船舶」ハ消毒方法ヲ施行シ「船舶」其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル船舶ニハ消毒方法ヲ施行シ「ベスト」ナルトキハ特ニ鼠族ノ驅除ヲ行ヒニ改メ同第二項中「交通遮斷」ノ下ニ「隔離」ヲ同第三項中消毒方法ノ下ニ「鼠族驅除」ヲ加フ

附則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

内務省令第二十號船舶検査規則(明治三十年七月十九日)抄録
 第二條 府縣知事(以下略)指定シタル地方ヲ發シ又ハ其ノ地方ヲ經テ検査ヲ施行スル港ニ來ル船舶ハ検査掛員ノ登陸又ハ検査ヲ受ケ其ノ許可ヲ得タル後ニアラザルハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ 乘客乗組人ヲ上陸セシメ又ハ積荷手荷物ノ陸揚ヲ爲スヘカラス
 航行中又ハ現ニ傳染病患者若クハ死者ナキ船舶ニハ直ニ前項ノ許可ヲ與フルコトヲ得
 第四條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アリタル船舶ニハ消毒方法ヲ施行シ港内適當ノ場所ニ停留セシメ其ノ船舶ノ乘客乗組人ニハ消毒方法ヲ施行シ停留所船中其ノ他適當ノ場所ニ停留セシムルコトヲ得
 前項停留ノ日時ハ傳染病預防法施行規則第六條交通遮斷ノ日時ニ準ス停留中新タニ患者ヲ發シタルトキハ其ノ處置ヲ了シタル時ヨリ起算シ更ニ同期間停留ヲ繼續スルコトヲ得
 検査掛員ニ於テ消毒方法ヲ施行スルトキハ乗組人ヲシテ補助ヲ爲サシメ及器具藥品等ヲ供給セシムルコトヲ得

○内務省令第十六號

傳染病研究所痘苗、血清類賣捌規則左ノ通定ム

明治三十八年六月十三日

内務大臣子爵芳川顯正

傳染病研究所痘苗、血清類賣捌規則

第一條 傳染病研究所ニ於テ製造賣捌ノ痘苗、血清類ハ左ノ各種トス

痘苗

「デフテリア」血清

破傷風血清

「ツベルクリン」

第二條 前條ノ痘苗、血清類ヲ要スル者ハ傳染病研究所ニ賣渡ヲ請求スヘシ但シ血清「ツベルクリン」ノ請求者ハ醫師、藥劑師又ハ藥種商ニ限ル

官衙公署其ノ他公共團體ニ於テ血清「ツベルクリン」ヲ要スルトキハ其ノ賣渡ヲ請求スルコトヲ得

第三條 外國ヨリ痘苗、血清類ノ請求アリタルトキハ内地ノ供給ヲ妨ケサル限り之ニ應スルモノトス

第四條 痘苗、血清類ノ定價ハ左ノ如シ但シ運送費ヲ要セス

痘苗

一具(五人分)金五錢

「デフテリア」血清

液體「デフテリア」血清

第一號

一壺(六〇〇免)金六拾錢

第二號

一壺(免)單位)金一圓

第三號

一壺(免)單位)金一圓五拾錢

乾燥「デフテリア」血清

一壺(免)單位)金五圓

破傷風血清

液體破傷風血清

第一號

一壺(免)單位)金七拾五錢

第二號

一壺(免)單位)金三圓

乾燥破傷風血清

一壺(免)單位)金七圓五拾錢

「ツベルクリン」

一壺(免)單位)金三圓

第五條 市町村(之ニ準スヘキ)ニ於テ施行スル種痘ニ要スル痘苗ノ代價ハ前條定價ノ半額トス
 外國ヨリノ請求ニ係ル痘苗ハ清韓兩國ニ在リテハ其ノ代價ヲ前條定價ノ二倍其ノ他ノ國ニ在リ
 テハ六倍トシ血清、ツベルクリンハ總テ其ノ代價ヲ同定價ノ二倍トス
 藥劑師(現ニ藥品營業)藥種商ニハ痘苗、血清類ヲ通シテ特ニ前條定價ノ一割ヲ減シ賣渡スヘシ
 傳染病研究所長ハ特別ノ事情アリト認ムル者ニ限リ内務大臣ノ認可ヲ經條件ヲ附シテ痘苗、血
 清類ノ定價ノ幾分ヲ減シ之ヲ交付スルコトヲ得但シ其ノ代價ハ前條定價ノ半額ヲ下ルコトヲ得
 ス

第六條 痘苗、血清類ノ代價ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ但シ官衙及外國ヨリノ請求ニ係ルモノ
 ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 痘苗、血清類請求數量ニ對シ納付ノ收入印紙ニ過不足アルトキハ印紙相當ノ數量ヲ送付
 スルモノトス但シ一具若ハ一壺ノ代價ニ滿タサル端數ハ切捨トス

第八條 傳染病研究所長ハ腸窒扶私血清、赤痢血清、虎列刺血清、「ベスト」血清、飯匙蛇毒血清、連鎖球
 菌血清、丹毒治療液ヲ相當代價ヲ以テ血清類ニ關スル本則ノ規定ニ準シ賣渡スコトヲ得
 附則

第九條 本則ハ明治三十八年六月二十日ヨリ施行ス

第十條 明治二十九年内務省令第八號痘苗賣下規則及同三十五年内務省令第十五號血清賣下規則
 ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

○内務省令第十七號

明治三十年内務省令第十三號清潔方法消毒方法中左ノ通改正ス

内務大臣子爵芳川顯正

明治三十八年六月十四日

第一條第四號ヲ左ノ通改ム

四 「ベスト」ニ對シテハ前各號ノ外屋根裏、天井、羽目板間、床下等ニ就テ鼠族ノ搜索驅除ヲ行フ
 ヘシ

同條第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五 傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ於テ施行スル場合亦前各號ヲ準用スヘシ

第六條第二號中其ノ他ノ排泄物ノ下ニ及塵芥動物ノ死體ヲ加フ

第九條中「煮沸消毒ハ」ノ下ニ「消毒スヘキ物品ヲ全部水中ニ浸シ」ヲ加ヘ「一時」ヲ「三十分」ニ改ム

第十條第一號ノ四中「十二時」ヲ「六時」ニ改ム

同條第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一ノ二 「クレゾール」水「クレゾール」石鹼液
六分水九十四分
 「クレゾール」水ヲ製スルニハ「クレゾール」石鹼液六分ニ定量ノ水ヲ加フヘシ
 「クレゾール」水ハ各種物件ノ消毒ニ適シ其ノ用量及應用ハ「石炭酸水」ニ準スヘシ
 同條第二號中「凡十萬分一」ノ「フロキシ」ニ「スカレット」又ハ「ゾイレフ」クシシ其ノ他適當ノ色素
 ニ「又ハ木製器具」消毒ニ用フヘシ「飲食器」「玩具」「蠟燭物」ヲ「木製器具」又ハ室内ノ消毒ニ適ス「飲食用
 器具」「玩具」ニ改ム

同條同號末尾ノ次ニ左ノ通追加ス

手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ
 同條第三號中「芥溜床下」及「溝渠芥溜」ニ對スル量ハ之ニ準シ床下ニ在テハ其ノ全面ニ撒布スヘシ

ヲ削リ「生石灰末ノ五倍」ヲ「吐瀉物其ノ他排泄物等ノ容量四分ノ一以上」ニ改メ「普通石灰以下」同一ノ效ナシトス「迄」ヲ「普通石灰ハ生石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限り代用トシテ其ノ倍量ヲ用フヘシ」ニ改ム

同條第四號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

五 加里石鹼又ハ綠石鹼

加里石鹼又ハ綠石鹼三分ヲ熱湯百分ニ溶解シ使用ノ際ニハ加熱スルヲ要ス

加里石鹼又ハ綠石鹼ハ不潔ナル木製器具、戸、障子、床面等ノ消毒ニ適ス

六 「フオルムアルデヒド」

「フオルムアルデヒド」ハ「フオルマリン」ヲ噴霧發生セシメ又ハ適當ノ裝置ニ依リ之ヲ發生セシムヘシ

「フオルムアルデヒド」ヲ使用セントスル際ハ左ノ諸件ニ注意スヘシ

一 氣密ニ閉鎖シ得ヘキ消毒函内又ハ土藏造洋風建物、船舶、汽車等ニシテ戸扉窓孔等ヲ密閉シ得ヘキ室内ニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス

二 消毒函又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付「フオルマリン」四十瓦以上ヲ噴霧セシメ若クハ「フオルムアルデヒド」瓦斯十五瓦以上ヲ發生セシメ同時ニ約百瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ

「フオルムアルデヒド」ハ左ノ消毒ニ用井ルコトヲ得

一 土藏造洋風建物、船舶、汽車等ノ密閉シ得ル室内又ハ室内ニ定著セル器物等ニシテ他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハサルモノ

二 他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハサル貴重品其ノ他ノ物件ニシテ其ノ内部ニ至ルマテ消毒方法ヲ施スノ必要ナシト認メタルモノ

第十一條第二號中「若クハ木炭」ヲ削ル

同條第六號中「曹達石鹼」ヲ「加里石鹼又ハ綠石鹼」ニ「若クハ之ヲ撒布スヘシ」ヲ「若クハ之ヲ撒布シ又ハ「フオルムアルデヒド」ヲ用フヘシ」ニ改ム

同條第七號ヲ左ノ通改ム

第七 家屋

患者ノ居室其ノ他傳染病ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル室内各部ハ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ拭淨スヘシ但土藏造洋風建物等密閉シ得ヘキ室内ニハ「フオルムアルデヒド」ヲ用井ルコトヲ得

消毒後ハ日光ノ射入空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥セシムルヲ要ス

同條第七號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

第七ノ二 井戸、水槽等

傳染病ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル井戸、水槽等ニハ水量五十分一ノ生石灰ヲ乳狀トナシテ投入シ能ク攪拌シタル後十二時間以上放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リテ熱蒸氣ヲ通シ三十分

間以上洗滌セシムヘシ

附 則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ施行ス

明治三十八年六月 省令 内務省第十七號

〔參照〕

大藏省令第二十二號鹽專賣法施行細則(明治三十八年四月一日)抄錄
第三十六條 本令ニ依リ提供スヘキ擔保物ハ金銀又ハ鹽務局長ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ル
擔保ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ鹽務局ニ提出スヘシ

○大藏省令第二十七號

明治三十四年大藏省令第二十五號中橫濱東京間ノ項左ノ通改正ス

明治三十八年六月十六日

橫濱東京間

官設鐵道日本鐵道若ハ橫濱港ヨリ隅田川口及ヒ隅田川ヨリ小名木川ヲ經テ東京府南葛飾郡砂村大字袋
高ニ至ル直航水路又ハ隅田川ヨリ北豐島郡南千住ニ至ル直航水路

〔參照〕

明治三十四年三月十日大藏省令第二十五號ハ保稅倉庫法第四條ニ依ル道路ノ件ナリ

○陸軍省令第十號

陸軍兵籍規則中左ノ通改正ス

明治三十八年六月二日

陸軍大臣寺內正毅

第五條中「第一補充兵」ヲ「補充兵」ニ改メ「及第二補充兵」ヲ削ル

第十二條 戰時ニ在リテ召集セラレタル國民兵役者ノ兵籍ハ戰役間補充兵ノ例ニ依リ戰役終了後

附表第二備考九中「第一補充兵」ヲ「補充兵」ニ改ム

〔參照〕

陸軍省令第六號陸軍兵籍規則(明治三十七年二月十日)抄錄
第五條 第二種兵籍ハ入隊又ハ入校ノトキ當該部隊ニ於テ調製スヘシ但シ第一補充兵及第二補充兵ニ在リテハ初

○陸軍省令第十一號

陸軍ニ召集セラレタル者ニ本年勅令第七十九號ニ依リ手當支給方左ノ通定ム

明治三十八年六月十四日

陸軍大臣寺內正毅

第一條 手當ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ恩給證書ノ寫ヲ添ヘ俸給支給廳ニ届出ヘシ

第二條 手當ハ俸給月額ト恩給年額十二分ノ一トヲ對比シ其ノ不足額ヲ毎月(營内居住下士俸給

支給ノ際俸給支給廳ニ於テ之ヲ給ス

第三條 前條ノ俸給額ニハ諸加俸ヲ加算シ戰時給與規則ニ依ル増給ヲ算入セス

第四條 陸軍懲罰令又ハ陸軍給與令ニ依リ俸給ヲ減給若ハ停止シ又ハ歸鄉療養手當ヲ給スル場合

ニ在リテモ前二條ニ依リ俸給額ト對比シテ手當ヲ支給ス

第五條 手當ハ留守宅ニ於テ之ヲ受領スルコトヲ得其ノ手續ハ留守宅渡俸給ノ例ニ依ル

○陸軍省令第十二號

本年七月十五日入隊セシムヘキ士官候補生ハ同十月十日陸軍士官學校ニ入校セシム

前項ノ士官候補生中下士ヨリ採用ズル者ハ本年七月十五日ヲ以テ其ノ本官ヲ免シ之ニ士官候補生

ヲ命スルモノトス

明治三十八年六月二十一日

陸軍大臣寺內正毅

○司法省令第十八號

工場抵當登記取扱手續左ノ通相定ム

明治三十八年六月二十六日

司法大臣波多野敬直

工場抵當登記取扱手續

第一條 工場抵當法ニ依ル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除ク外不動産登記法施行細則ノ規定ニ依ル

第二條 工場財團登記簿ハ附録第一號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三條 工場財團共同人名簿ハ附録第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條 工場財團所有權保存ノ登記ヲ申請スルニハ工場抵當法第二十二條ニ掲ケタル書面ノ外工場ノ圖面ヲ提出スヘシ

第五條 各別ノ所有者ニ屬スル數箇ノ工場ニ付工場財團所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ工場抵當法第二十一條第一號乃至第三號ノ事項ニ付各所有者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ

第六條 工場財團目録ノ記載ハ後九條ノ規定ニ從フヘシ

第七條 土地ニ付テハ郡市區町村字土地ノ番號地目段別又ハ坪數及用方ヲ記載スヘシ

第八條 工作物ニ付テハ其ノ種類構造及延坪又ハ延長ヲ記載シ且其ノ所在ノ土地ヲ表示スヘシ

第九條 機械器具電柱電線配置諸管軌條其ノ他ノ附屬物ニ付テハ其ノ種類構造箇數又ハ延長ヲ記載シ若製作者ノ氏名又ハ名稱製造ノ年月記號番號其ノ他同種類ノ他ノ物ト區別スルニ足ルヘキ特質アルトキハ其ノ特質ヲモ記載スヘシ

數箇ノ土地又ハ工作物ノ一ニ附屬スル物ニ付テハ其ノ附屬スル土地又ハ工作物ヲ表示スヘシ輕微ナル附屬物ノ記載ハ概括シテ之ヲ爲スコトヲ得

第十條 登記シタル船舶ニ付テハ船舶登記規則第十六條ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第十一條 地上權ニ付テハ第七條ニ掲ケタル事項ノ外設定ノ目的及範圍存續期間地代及其ノ支拂時期設定ノ年月日竝ニ所有者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十二條 質借權ニ付テハ第七條第八條第九條又ハ第十條ニ掲ケタル事項ノ外存續期間借賃及其ノ支拂時期設定ノ年月日竝ニ質貸人ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十三條 工場抵當法第十六條第二項ニ依リ抵當權ノ目的タルヘキ地役權ニ付テハ承役地ノ表示設定ノ目的及範圍設定ノ年月日竝ニ所有者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十四條 工業所有權ニ付テハ其ノ權利ノ種類名稱番號及原簿登錄ノ年月日ヲ記載スヘシ

工業所有權ニ關スル實施權ニ付テハ實施權ノ範圍竝ニ本權ノ種類名稱番號原簿登錄ノ年月日及其ノ權利者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十五條 數箇ノ工場ニ付工場財團ヲ設クル場合ニ於テハ各工場ニ屬スルモノヲ區分シテ記載スヘシ

數箇ノ工場カ各別ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テハ各所有者ニ屬スルモノヲ區分シテ記載スヘシ

第十六條 工場財團目録ヲ作成スルニハ美濃判大ノ紙料ヲ用ユヘシ

第十七條 工場財團目録ニハ其ノ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ申請人カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル

第十八條 工場ノ圖面ニハ工場ニ屬スル土地及工作物ノ方位形狀及間尺竝ニ重要ナル附屬物ノ

配置ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ
地上權ノ目的タル土地賃借權ノ目的タル土地及工作物竝ニ承役地ニ付テハ各其ノ方位、形狀及
間尺ヲ記載スヘシ

工場ノ一部ヲ以テ工場財團ヲ設クル場合ニ於テハ財團ニ屬スル部分ト之ニ屬セサル部分トヲ區
分スヘシ

第十九條 登記官吏カ工場抵當法第二十條第三項ニ依リ表示欄ニ工場財團ノ表示ヲ爲スニハ工場
ノ名稱、位置、主タル營業所及營業ノ種類ヲ記載スヘシ

第五條ノ場合ニ於テハ所有者ノ氏名又ハ名稱ヲモ記載スヘシ

第二十條 登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ工場財團目錄及工場ノ圖面ニ申請書受付ノ年月日、
受付番號及登記番號ヲ記載スヘシ

工場抵當法第二十九條ニ依リ提出シタル目錄ニハ申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スルヲ
以テ足ル

第二十一條 登記官吏カ工場抵當法第二十三條第二項、第四項、第二十六條、第二十八條第二項、第三
十四條第二項、第三十七條第二項、第四十三條、第四十四條第二項、第四項及第四十八條第二項ニ依
リ通知ヲ爲ストキハ其ノ要旨、通知ヲ受クル者及通知ヲ發スル年月日ヲ不動産登記法施行細則
第十四條第五號ノ通知簿ニ記入シ通知書ト契印スヘシ

第二十二條 登記官吏カ工場抵當法第二十三條第二項、第二十八條第二項、第三十四條第二項、第三
十七條第二項、第四十三條、第四十四條第二項及第四十八條第二項ニ依リ通知ヲ受ケタルトキハ

受付帳ニ通知事項ノ要旨、通知ヲ爲シタル登記所ノ名稱、受付ノ年月日及受付番號ヲ記載シ通知
書ニ受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ但シ通知事項ノ要旨ハ登記ノ目的欄ニ、通知ヲ爲シ
タル登記所ノ名稱ハ申請人ノ氏名欄ニ之ヲ記載スヘシ

第二十三條 工場財團目錄及工場ノ圖面ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ

第二十四條 工場抵當法第三條ノ場合ニ於テハ土地又ハ建物カ同法第一條ノ工場ニ屬スルモノナ
ルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ提出スヘシ

第二十五條 前條ノ場合ニ於テ土地又ハ建物ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其ノ登記ヲ爲ストキハ
工場抵當法第三條ニ依リテ目錄ノ提出アリタルコトヲ記載スヘシ

第二十六條 第九條第十六條、第十七條、第二十條及第二十三條ノ規定ハ工場抵當法第三條ノ目錄
ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ工場抵當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附錄第一號

工場財團登記簿

區裁判所

紙數表紙ヲ除キ

枚

地方裁判所長

第 一 號 登記簿		(示表因財場工) 部 題 表	
乙	甲	工場財團登記簿	
(權有所) 區	(權有所) 區	丁	
番順位 番號	番順位 番號	番順位 番號	番順位 番號
事 項 欄	事 項 欄	事 項 欄	事 項 欄
番順位 番號	番順位 番號	番順位 番號	番順位 番號
事 項 欄	事 項 欄	事 項 欄	事 項 欄
番順位 番號	番順位 番號	番順位 番號	番順位 番號
事 項 欄	事 項 欄	事 項 欄	事 項 欄
番順位 番號	番順位 番號	番順位 番號	番順位 番號
事 項 欄	事 項 欄	事 項 欄	事 項 欄
番順位 番號	番順位 番號	番順位 番號	番順位 番號
事 項 欄	事 項 欄	事 項 欄	事 項 欄

第 一 號 登記簿		(權當抵) 區	
附錄第二號		工場財團登記簿	
工場財團共同人名簿		丁	
區裁判所		(權當抵) 區	
紙數表紙ヲ除キ		枚	
地方裁判所長		地方裁判所長	
番號	申請人ノ氏名住所	持分	豫備

語トシ生徒ノ志望ニ依リ其ノ一ヲ修メシム

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
倫理	1	1	1
書法及商業文	2	2	2
英語	10	10	10
經濟學	3	3	3
民法商法	3	3	3
工業大意	3	3	3
簿記	4	2	2
商業算術	2	2	2
商業地理及商品學	3	3	3
商業實習	4	3	3
第二外國語	3	3	3
體操	3	3	3
計	35	35	35

學校長教官ハ常ニ適切ノ方法ニ依リ生徒ノ品性ヲ陶冶スヘキモノナルヲ以テ倫理ノ教授時數ハ適宜之ヲ斟酌スルコトヲ得

○文部省令第九號

名古屋高等工業學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十八年六月八日

文部大臣久保田讓

名古屋高等工業學校規程

- 第一條 名古屋高等工業學校ノ修業年限ハ三箇年トス
- 第二條 名古屋高等工業學校ノ學科ハ土木科、機械科、建築科、機械科及色染科トス
- 第三條 名古屋高等工業學校各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

土木科

學科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	1	1	1	1	1	1	1	1	1
英語	5	5	5	5	5	5	5	5	5
數學	5	5	5	4	4	4	2	2	2
物理學	5	5	5						
化學	5	5	5						
應用力學	3	3	3	7	6	6			
幾何	6	6	6						
建築材料	1	1	1						
機械工學							3	3	3

學科	科目	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
		第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
機械科	物理學	五	五	五	四	四	三			
	數學	五	五	五	四	四	三			
	英語	五	五	五	三	三	二			
	倫理	一	一	一	一	一	一			
	化學							二	二	二
	應用力學									
	幾何									
	工作法									
	發動機									
	電氣工學									
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	
監製	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
測量	九	九	九	六	七	七				
地質學	二	二	二							
河海工學										
衛生工學										
道路鐵道										
橋梁										
石工學										
家屋構造										

機械科

學科	科目	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
		第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
建築科	物理學	五	五	五	四	四	三			
	數學	五	五	五	四	四	三			
	英語	五	五	五	三	三	二			
	倫理	一	一	一	一	一	一			
	化學							二	二	二
	應用力學									
	幾何									
	工作法									
	發動機									
	電氣工學									
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	
監製	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
實習	一〇	一〇	一〇	八	九	九	四	五	五	
製圖				一〇	一〇	一〇	九	九	九	
特別講義							三	四	五	
家屋構造							二	二	二	
電氣工學							二	四	三	

建築科

學科	科目	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
		第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
建築科	物理學	五	五	五	四	四	三			
	數學	五	五	五	四	四	三			
	英語	五	五	五	三	三	二			
	倫理	一	一	一	一	一	一			
	化學							二	二	二
	應用力學									
	幾何									
	工作法									
	發動機									
	電氣工學									
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	
監製	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
實習	一〇	一〇	一〇	八	九	九	四	五	五	
製圖				一〇	一〇	一〇	九	九	九	
特別講義							三	四	五	
家屋構造							二	二	二	
電氣工學							二	四	三	

學科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
物理學	三	四	五	三	四	五	三	四	五
化學	三	四	五	三	四	五	三	四	五
應用力學	三	四	五	三	四	五	三	四	五
自在畫	二	二	二	三	三	三	三	三	三
幾何畫	六	六	六	三	三	三	三	三	三
透視畫法	一	一	一	一	一	一	一	一	一
建築材料	一	一	一	一	一	一	一	一	一
家屋構造	二	二	二	二	二	二	二	二	二
建築史	二	二	二	二	二	二	二	二	二
衛生建築	二	二	二	二	二	二	二	二	二
施工法	二	二	二	二	二	二	二	二	二
測量	六	六	六	九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
製圖	二	二	二	二	二	二	二	二	二
實習	二	二	二	二	二	二	二	二	二
體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五

學科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	五	五	五	三	三	三	二	二	二
數學	五	五	五	三	三	三	二	二	二
物理學	五	五	五	三	三	三	二	二	二
化學	三	三	三	三	三	三	二	二	二
應用機械學	三	三	三	三	三	三	二	二	二
圖畫	八	八	八	五	五	五	二	二	二
織維	一	一	一	一	一	一	一	一	一
色染	一	一	一	一	一	一	一	一	一
機械	一	一	一	二	二	二	二	二	二
染織物整理	一	一	一	二	二	二	二	二	二
紡織	一	一	一	二	二	二	二	二	二
機械製圖	八	八	八	五	五	五	二	二	二
實習	八	八	八	五	五	五	二	二	二
體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五

色染科

學科目	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	五	五	五	三	三	三	二	二	二
數學	二	二	二						
物理學	五	五	五						
化學	五	五	五						
製造化學									
應用機械學									
圖畫	八	八	八						
纖維	一	一	一						
色染									
機械									
染織物整理									
化學分析									
機械製圖									
實習	九	九	九	一五	一五	一五	二〇	二〇	二二

學校長教官ハ常に適切ノ方法ニ依リ生徒ノ品性ヲ陶冶スヘキモノナルヲ以テ前五表中倫理ノ教授時數ハ適宜之ヲ斟酌スルコトヲ得

○文部省令第十號

京都高等工藝學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並研究生ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十八年六月二十日

文部大臣久保田讓

京都高等工藝學校規程

- 第一條 京都高等工藝學校ノ修業年限ハ三箇年トス
- 第二條 學科ハ分チテ色染科、機械科及圖案科トシ各學科ニ第一部及第二部ヲ置ク
- 第三條 各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ學校長ハ第二部生ニ限リ本條ノ學科目中其ノ一部ヲ課セサルコトヲ得

色染科

倫理	第一學年		第二學年		第三學年	
	每週教授時數	秋學期	每週教授時數	秋學期	每週教授時數	秋學期
倫理	〇五以上	同上	同上	同上	同上	同上
數學物理學化學	二三以下	同上				

科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	每週教授時數	秋學期	每週教授時數	春學期	每週教授時數	秋學期
物理學、化學實習	三、以上	同上	七、以上	同上	三、以上	同上
英語	三、以上	同上	同上	同上	三、以下	同上
圖畫學及實習	七、以下	同上	同上	同上	同上	同上
美術工藝史	三、以下	同上	同上	同上	同上	同上
製造化學			三、以下	同上	同上	同上
機械學、紡績學			三、以下	同上	同上	同上
機械學及實習	三、以下	同上	八、以下	同上	同上	同上
色染學			五、以下	同上	同上	同上
色染實習			三、以上	同上	同上	同上
工業場簿記					四、以下	同上
工業簿記					同上	同上
體操	二、以上	同上	同上	同上	同上	同上

機織科

科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	每週教授時數	秋學期	每週教授時數	春學期	每週教授時數	秋學期
倫理	〇、五以上	同上	同上	同上	同上	同上
數學、物理學、化學	二、以下	同上	同上	同上	同上	同上
物理學、化學實習	六、以上	同上	同上	同上	同上	同上

科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	每週教授時數	秋學期	每週教授時數	春學期	每週教授時數	秋學期
英語	三、以上	同上	同上	同上	三、以下	同上
圖畫學及實習	七、以下	同上	同上	同上	同上	同上
美術工藝史	三、以下	同上	同上	同上	同上	同上
機械學、紡績學			三、以下	同上	同上	同上
色染學及實習			六、以下	同上	同上	同上
機械學	三、以下	同上	六、以下	同上	同上	同上
機械實習	五、以上	同上	七、以上	同上	一、八以上	同上
工業場簿記					四、以下	同上
工業簿記					同上	同上
體操	二、以上	同上	同上	同上	同上	同上

圖案科

科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	每週教授時數	秋學期	每週教授時數	春學期	每週教授時數	秋學期
倫理	〇、五以上	同上	同上	同上	同上	同上
數學、物理學、化學	二、三、以下	同上				
物理學、化學實習	六、以下	同上				
英語	三、以上	同上	同上	同上	三、以下	同上
圖畫學及實習	七、以下	同上	同上	同上	同上	同上

美術工藝史	三、以下	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
色染學及實習			三、以下	同上	同上	六、以下	同上	同上
機械學及實習	三、以下	同上					六、以下	同上
生物學			三、以上	同上	同上	三、以下	同上	同上
物品學			二、以下	同上	同上	同上	同上	同上
圖案學及實習	一〇、以上	同上	二〇、以上	同上	同上	同上	同上	同上
工業簿記					二、以下	同上	同上	同上
體操	二、以上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

第四條 卒業者ニシテ既修ノ學科ニ就キ更ニ研究セントスルモノアルトキハ學校長ニ於テ必要ト認ムル場合ニ限リ二箇年以内在學セシムルコトヲ得

○文部省令第十一號

小學校教育成績規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十八年六月二十一日

文部大臣久保田謙

小學校教育成績規程

第一條 小學校教員ニシテ其ノ成績顯著ナル者ハ文部大臣之ヲ選奨ス

市町村長、町村學校組合長其ノ他市町村若ハ之ニ準スヘキモノノ吏員又ハ學務委員ニシテ小學校ノ教育ニ關シ成績顯著ナル者ハ亦之ヲ選奨スルコトアルヘシ

第二條 前條ノ選奨ハ教育成績狀ヲ授與シテ之ヲ行ヒ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第三條 小學校教員ニシテ小學校令第四十九條ニ依リ其ノ有スル免許狀效力ヲ失ヒ若ハ免許狀ヲ褫奪セラレタルトキハ教育成績狀ヲ返納セシメ官報ヲ以テ之ヲ公示ス其ノ他ノ者ニシテ公權ヲ剝奪セラレタルトキ亦同シ

第四條 第一條ノ成績ヲ審査スル爲文部省內ニ委員ヲ置ク

○農商務省令第十七號

鑛業法施行細則左ノ通定ム

明治三十八年六月十五日

農商務大臣男爵清浦奎吾

鑛業法施行細則

第一條 願書、申請書、屆書及圖面ハ一件毎ニ之ヲ調製シ様式ノ定アルモノニ付テハ其ノ様式ニ準スヘシ

第二條 農商務大臣又ハ鑛山監督署長ニ差出シタル書面、圖面又ハ標品ニシテ必要ト認ムルモノハ之ヲ返付セス

第三條 鑛業ニ關シ命令又ハ通知ヲ發スル場合ニ於テ受信人ノ住所不分明ナルトキハ十日間其ノ要旨ヲ鑛山監督署ノ揭示場ニ揭示スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ期間滿了ノ日ニ命令又ハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第四條 本則ノ規定ニ依リテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者鑛業出願人鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本則中鑛業ノ出願ニ關スル規定ハ鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、増減及改正ノ出願ニ付之ヲ準用ス

第六條 書面又ハ圖面不完備ナルトキハ鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ附シテ修正又ハ補充ヲ命スルコトヲ得

第七條 書面又ハ圖面ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ消印記號ニ記載シタル日時ニ差出シタルモノト看做ス

郵便物受取證ニ依リテ消印記號ニ記載シタル日時外ノ日時ニ差出シタルコトヲ證明シタルトキハ其ノ日時ニ差出シタルモノト看做ス其ノ消印記號ナキ場合又ハ其ノ不明ナル場合ニ於テ郵便物受取證ニ依リテ其ノ差出シタル日時ヲ證明シタルトキ亦同シ

第八條 農商務大臣ニ差出スヘキ書面又ハ圖面ハ鑛山監督署長ヲ經由スヘシ此ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長ニ差出シタル日時ヲ以テ差出ノ日時ト看做ス

第九條 同一地域ニ於テ二種以上ノ鑛物ニ付鑛業ヲ爲サムトスル者ハ各種ノ鑛物毎ニ願書ヲ差出スヘシ但シ同一ノ鑛床中ニ存スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 鑛業ノ許可ヲ得タル鑛物ノ名稱ヲ更正セムトスルトキハ願書ニ理由書ヲ添附シテ差出スヘシ

第十一條 共同鑛業出願人ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ屆書ヲ差出スヘシ共同鑛業出願人ハ願書ニ代表者ヲ表示シテ前項ノ届出ニ代フルコトヲ得

前二項ノ規定ハ出願人ノ變更、鑛業權ノ設定又ハ移轉ニ因リ鑛業出願人又ハ鑛業權者ト爲ルヘキ者二人以上ナル場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者代表者ヲ改定シタルトキハ遲滞ナク連署シテ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第十三條 鑛業法第七條第一項ノ規定ニ依リ鑛山監督署長代表者ヲ指定シタルトキハ之ヲ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ニ通知スヘシ

第十四條 鑛業出願人代表者ニ依リテ鑛業出願ノ取下、區域増減ノ出願又ハ出願人變更ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ願書又ハ屆書ニ其ノ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ代表者ニ依リテ鑛區ノ増減、合併又ハ分割ヲ出願スル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 鑛業ニ關スル出願ニシテ鑛利保護上又ハ鑛區分合上出願地及鑛區ノ面積百萬坪ヲ超ユル場合ニ於テハ願書ニ其ノ理由書ヲ添附スヘシ

第十六條 鑛業ノ出願地鑛業法第十條第二項ノ場所ニ係ルトキハ出願ノ日ヨリ三十日以内ニ所轄官廳ノ許可書若ハ許可ヲ受ケタルコトヲ證スル書面又ハ許可ヲ申請シタルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第十七條 鑛業出願地ノ形狀鑛業ヲ爲スニ不當ナリト認ムルトキハ鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經相當ノ期限ヲ附シテ出願地ノ増減ヲ命スルコトヲ得

第十八條 鑛業出願人他人ノ鑛區ニ鄰接シテ鑛區ヲ定メムトスルトキハ中間二十間以上ノ距離ヲ置クヘシ但シ鄰接鑛業權者ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ試掘鑛區ノ範圍内ニ於テ採掘ヲ出願スルトキハ此ノ限ニ在ラス

鑛業ノ監督又ハ鑛利保護ノ爲前項ノ距離ノ延長又ハ減縮ヲ必要ナリト認ムルトキハ鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經相當ノ期限ヲ附シテ出願地ノ増減ヲ命スルコトヲ得

第十九條 鑛業願書ニ添附スヘキ圖面ハ様式第十四號ニ準シテ調製シ左ニ掲クル事項ヲ明示スヘシ

一 出願地ノ名稱及種目
 二 出願地ノ面積
 三 南北線
 四 縮尺
 五 二箇以上ノ不動基點並其ノ名稱及特徵
 六 出願地ノ各隅トナルヘキ測點並其ノ番號
 七 境界線並基點ト連結シタル測點間ノ方位及其ノ間數
 八 出願地ヨリ五十間以內ニ於ケル他ノ鑛區トノ關係
 九 出願地又ハ其ノ附近ニ於ケル鑛床ノ露頭及其ノ走向傾斜
 十 出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他鑛業法第十條又ハ第十一條ニ記載シタルモノ
 前項ノ圖面ニハ其ノ出願地ヲ實測シタル測量者ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ但シ鑛山監督署ニ於テ實測シタル圖面ニ適合スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 探掘出願人ハ其ノ願書ニ探掘セムトスル鑛物ノ鑛床ニ關スル説明書ヲ添附スヘシ

第二十一條 試掘又ハ探掘ノ願書及出願地又ハ鑛區ノ増減ノ願書ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ發送郵便局ヨリ受附ノ年月日及時刻ヲ記載シタル受取證ヲ請置クヘシ

第二十二條 鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ附シ出願人ニ鑛業ノ設備ニ關スル設計書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第二十三條 出願地ノ實測ニ關スル事實ヲ認定スル爲必要アリト認ムルトキハ鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ附シ測量者ノ署名捺印シタル原圖野帳又ハ其ノ寫其ノ他測量ノ事實ヲ證スヘキ書類

ノ提出ヲ出願人ニ命スルコトヲ得

第二十四條 鑛山監督署長ハ鑛業ニ關スル出願又ハ鑛區ニ付實地調査ヲ必要ト認ムルトキハ調査事項及調査期日ヲ指定シ出願人又ハ鑛業權者ニ立會ヲ命スルコトヲ得若シ調査期日ヲ指定スルコト能ハサルトキハ豫定期日ヲ定メ確定期日ハ出張吏員ノ指定ニ依ルヘキコトヲ命スヘシ
 出張吏員カ確定期日ヲ指定スルトキハ少クトモ三日前ニ之ヲ通知スヘシ但シ出願人又ハ鑛業權者ニ於テ異議ナキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 鑛業出願人變更ノ屆書ニハ新舊出願人連署スヘシ

第二十六條 相續ニ因リテ鑛業出願人ト爲リタル者又ハ氏名名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業出願人ハ戶籍吏ニ届出タル日又ハ登記ノ日ヨリ十四日以内ニ其ノ事實ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ鑛山監督署長ニ届出ヘシ

第二十七條 共同鑛業出願人脱退シタルトキハ代表者ハ脱退ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ原由ヲ證スル書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ鑛山監督署長ニ届出ヘシ

第二十八條 探掘出願地ノ訂正願書ニハ訂正理由書ヲ添附スヘシ

第二十九條 探掘出願地ノ訂正又ハ鑛業出願地ノ増減ノ願書ニ添附スヘキ圖面ニハ新舊出願地ノ關係ヲ明示スヘシ

第三十條 鑛業法第三十三條第二項ノ規定ニ依ル抽籤ハ關係鑛業出願人立會ノ上鑛山監督署長之ヲ行フ

鑛山監督署長ハ抽籤ノ日時ヲ定メ少クトモ十四日前ニ關係鑛業出願人ニ通知スヘシ
 前項ノ通知ヲ受ケタル鑛業出願人抽籤日時ニ出頭セサルトキハ鑛山監督署長ハ二名以上ノ鑛山

監督署職員立會ノ上之ヲ行フ

第三十一條 鑛區ノ合併又ハ分割ノ願書ニハ理由書ヲ添附シ且之ニ添附スヘキ圖面ニハ合併又ハ分割スヘキ區域ノ關係ヲ明示スヘシ但シ分割ノ願書ニ添附スヘキ圖面ハ各區域毎ニ之ヲ調製スヘシ

鑛業法第三十五條第二項ノ規定ニ依ル抵當權者ノ承諾書及抵當權ノ順位ニ關スル協定書ハ合併又ハ分割ノ願書ニ之ヲ添附スヘシ

第三十二條 鑛業法第三十六條ノ規定ニ依ル鑛區訂正ノ願書ニハ鑛床圖其ノ説明書及鄰接鑛業權者ノ承諾書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第三十三條 鑛區訂正ノ願書ニ關シテハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第三十四條 鑛區ノ訂正増減又ハ改正ノ願書ニ關シテハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第三十五條 鑛業法第三十七條第三項ノ規定ニ依ル減區又ハ増減區ノ願書ニハ抵當權者ノ承諾書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第三十六條 鑛業ノ出願許可スヘキモノト決定シタルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ出願人ニ通知スヘシ

出願人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ登錄ヲ申請スヘシ

前二項ノ規定ハ第十條ノ出願ニ關シテ之ヲ準用ス

第三十七條 鑛區ノ境界又ハ面積カ鑛區圖ト相違スルコトヲ發見シタルトキハ鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ附シテ鑛業權ノ表示ノ變更ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ命令書ニ調査圖ヲ添附スヘシ

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長ハ願書申請書又ハ届書ヲ受理セス

一 試掘又ハ採掘出願地ノ全部カ所轄鑛山監督署ノ管轄區域内ニ在ラサルトキ

二 出願ノ鑛物カ鑛業法第二條ノ規定ニ該當セサルトキ

三 鑛業ノ願書ニ圖面ヲ添附セサルトキ

四 手数料ヲ納付セサルトキ

五 第十條第十五條第二十八條第三十一條又ハ第三十三條ノ規定ニ違背シ理由書ヲ添附セサルトキ

六 第十四條ノ規定ニ違背シ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附セサルトキ

七 第二十一條ノ規定ニ違背シ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ

八 第二十五條ノ規定ニ違背シ新舊出願人連署セサルトキ

九 第三十一條第二項ノ規定ニ違背シ承諾書及協定書ヲ添附セサルトキ

十 第三十二條又ハ第三十五條ノ規定ニ違背シ承諾書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附セサルトキ

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ願書又ハ届書ヲ却下ス

一 實地調査ノ際出願人カ出願區域ヲ明示スルコト能ハサルカ又ハ第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ指定シタル調査事項ノ説明ヲ爲スコト能ハサルトキ

二 出願人ノ指示スル區域カ願書ニ添附シタル圖面ト著シク相違スルトキ

三 第六條ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキ

四 第十六條ニ規定シタル期間内ニ許可書又ハ證明書ヲ差出ササルトキ

五 第十七條又ハ第十八條第二項ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ區域増減ノ願書ヲ差出ササル

- トキ
- 六 第二十二條ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ設計書ヲ差出ササルトキ
 - 七 第二十三條ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ原圖、野帳若ハ其ノ寫又ハ測量ノ事實ヲ證スヘキ書類ヲ差出ササルトキ
 - 八 第二十四條ノ規定ニ依リテ指定シタル期日ニ出願人立會ヲ爲ササルトキ
 - 九 第三十六條ニ規定シタル期間内ニ登録申請書ヲ提出シ又ハ郵便ニ附セサルトキ
 - 十 第七十九條ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ協定書ヲ差出ササルトキ
 - 第四十條 相續ニ因リテ鑛業權者ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業權者ハ戶籍吏ニ届出タル日又ハ登記ノ日ヨリ十四日以内ニ其ノ登録ヲ申請スヘシ
 - 第四十一條 鑛業權者鑛業ニ著手シタルトキハ遲滞ナク鑛區所在地又ハ其ノ附近ニ鑛業事務所ヲ定メ鑛山監督署長ニ届出ヘシ
 - 第四十二條 試掘權者ハ試掘鑛區圖及試掘工程表ヲ、採掘權者ハ坑内實測圖及鑛業簿ノ外採掘鑛區圖及鑛業施業案ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ
 - 第四十三條 鑛業權者ハ鑛業權ノ設定若ハ移轉ノ登録アリタル日ヨリ六箇月以内ニ事業ニ著手セス又ハ六箇月以上休業セムトスルトキハ理由ヲ詳記シテ鑛山監督署長ニ届出ヘシ
休業期間内ニ事業ニ著手シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ鑛山監督署長ニ届出ヘシ
 - 第四十四條 鑛業施業案ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ之ヲ説明スヘキ圖面ヲ添ヘ鑛業ニ著手ノ日ヨリ三十日以前ニ差出スヘシ
- 一 鑛床ニ關スル事項

- 主要ナル鑛床ノ位置(幅(又ハ厚サ)、走向、傾斜等)
 - 主要ナル斷層ノ位置及其ノ鑛床ニ及ホス影響
 - 主鑛物及副鑛物ノ種類並其ノ品位
 - 母岩ノ種類及其ノ性質殊ニ其ノ開鑿、支柱等ノ工事ニ及ホス影響
- 二 探鑛及開坑ニ關スル事項
- 目的トスル鑛床ノ位置及探鑛ノ順序、方法
 - 新設スヘキ 豎坑、斜坑又ハ橫坑ノ位置、方向、大サ、延長、落成期間、開鑿ノ方法及其ノ目的並坑口ニ於ケル裝置
 - 通氣、排水及運搬ノ方法
 - 使用人員及原動力
 - 水、瓦斯、磐石等ニ原因スル操業上危險ノ有無及其ノ豫防方法
- 三 採鑛ニ關スル事項
- 目的トスル鑛床ノ位置、名稱及其ノ採掘ノ順序、方法
 - 粗鑛量並其ノ最低品位及平均品位
 - 坑水及捨石ノ量、其ノ品質及處置
 - 通氣、排水及運搬ノ方法
 - 使用人員及原動力
 - 水、瓦斯、磐石等ニ原因スル操業上危險ノ有無及其ノ豫防方法
- 四 選鑛ニ關スル事項

選鑛ノ順序、方法

精鑛ノ種類、其ノ量及品位並粗鑛量
廢水及鑛滓ノ量、其ノ品質及處置

使用人員及原動力

五 製鍊ニ關スル事項

製鍊ノ順序、方法

精鑛量並製產物ノ種類及其ノ量

煙、廢水及鑛滓ノ量、其ノ品質及處置

使用人員及原動力

鑛業ノ種類又ハ狀況ニ依リ前項ノ規定ニ依リ難キモノアルトキハ理由ヲ明示シ前項ノ記載事項ヲ増減スルコトヲ得

第四十五條 鑛山監督署長ハ鑛業法第四十五條第一項ノ規定ニ依リ施業案ノ變更ヲ命スルニハ少クトモ三十日以上ノ期限ヲ附スヘシ

第四十六條 鑛業法第四十五條第二項ノ規定ニ依ル變更願書ニハ新ナル施業案及變更ノ理由ヲ詳記シタル書面ヲ添附スヘシ

第四十七條 坑内實測圖ハ平面圖及截面圖ノ二種トシ少クトモ毎月末ニ於ケル掘進ノ狀況ヲ測定シ翌月中ニ調製スヘシ

坑内實測圖ノ複本ハ毎年六月末日及十二月末日迄ノ分ヲ各八月末日及二月末日迄ニ差出スヘシ但シ鑛山ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經其ノ提出期又

ハ提出回數ノ變更ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ差出シタル前期ノ坑内實測圖複本ハ請求ニ因リ之ヲ下付ス

第四十八條 鑛業簿ニハ鑛產物ノ數量、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ記載スヘシ

鑛業簿ノ複本ハ毎年六月末日及十二月末日迄ノ分ヲ各七月末日及一月末日迄ニ差出スヘシ

第四十九條 前二條ノ規定ニ依リテ調製シ若ハ差出スヘキ書類又ハ圖面ハ採掘權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニハ採掘權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登錄ノ日ヨリ三十日以内ニ調製シ若ハ差出スヘシ

第五十條 鑛業明細表ハ毎年一月末日迄ニ其ノ前年ニ於ケル鑛產物ノ數量、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ記載シテ差出スヘシ

第五十一條 前條ノ規定ニ依リテ差出スヘキ書類ハ鑛業權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニハ鑛業權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登錄ノ日ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

第五十二條 前五條ノ規定ニ依リ坑内實測圖若ハ鑛業簿ノ複本又ハ鑛業明細表ヲ差出スヘキ場合ニ於テ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第五十三條 二箇以上ノ鑛區ニ付合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ第四十四條及第四十六條乃至第五十一條ノ書類又ハ圖面ハ合併シテ之ヲ調製スルコトヲ得

第五十四條 鑛業權者自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ鑛業代理人ヲ選任シ鑛山監督署長ニ届出ヘシ

前項ノ代理人ハ鑛業法及鑛業法ノ施行ニ關スル命令ノ規定ニ依リテ鑛業ノ管理ニ關シ鑛業權者ノ爲スヘキ一切ノ手續其ノ他ノ行爲ヲ委任セラレタルモノト看做ス但シ鑛業權者ハ其ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ヘシ

第五十五條 試掘權者ハ試掘工程表ヲ調製シテ一箇月毎ニ開坑ニ關スル狀況、鑛產物ノ數量、行業

日敷及工敷ヲ記載スヘシ

第五十六條 試掘ニ依リテ得タル鑛產物ヲ處分セムトスルトキハ其ノ方法及數量ヲ記載シ鑛山監督署長ニ出願スヘシ

第五十七條 鑛業法第四十九條ノ規定ニ依ル實地調査ノ願書ニハ調査區域及其ノ理由ヲ詳記シタル書面ヲ添附スヘシ

鑛山監督署長調査ヲ要スルモノト認メタルトキハ調査日敷並之ニ要スル人夫及物品ノ豫定書ヲ調製シ出願人ニ交付スヘシ

出願人ハ人夫及物品ヲ準備シ現場ニ立會フヘシ

第五十八條 鑛業法第五十二條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲サムトスル者ハ土地ノ名稱種目及其ノ目的ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

第五十九條 鑛業法第五十三條ノ規定ニ依リテ障碍物ヲ除却セムトスル者ハ障碍物ノ種類名稱存在ノ場所所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱並豫定價額ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

第六十條 鑛業法第五十四條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用セムトスル者ハ土地ノ名稱占有者ノ氏名又ハ名稱及其ノ目的ヲ記載シテ出願スヘシ

前項ノ出願ハ電信ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

本條ノ出願ニ對シ電信ヲ以テ指令ヲ受ケムトスル者ハ土地ノ名稱占有者ノ氏名又ハ名稱及立入り又ハ使用ノ目的ヲ記スルニ相當スル電信料ヲ前納スヘシ

第六十一條 鑛業法第五十二條乃至第五十四條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ニ立入り之ヲ使用シ又ハ障碍物ヲ除却セムトスル者ハ鑛山監督署長ノ許可證ヲ携帯スヘシ

第六十二條 鑛業法第五十六條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ヲ使用セムトスル者ハ土地ノ名稱種目所有者ノ氏名又ハ名稱住所使用ノ目的時期及期間ヲ記載シタル願書ニ土地登記簿本關係地實測圖及工事設計書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六十三條 鑛業權者鑛業法ノ規定ニ基キテ他人ノ土地ニ關スル權利ヲ取得シタルトキ使用ヲ始メタルトキ使用ヲ終リタルトキ又ハ使用セサルニ至リタルトキハ直ニ鑛山監督署長ニ届出ヘシ

前項ノ權利取得ニ關スル届書ニハ土地ノ名稱種目所有者ノ氏名又ハ名稱住所使用ノ目的時期及期間ヲ記載スヘシ

第六十四條 鑛業法第七十五條ノ規定ニ依リテ定ムヘキ鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則ニハ左ニ掲グル事項又ハ之ニ相當スヘキ事項ヲ定メ鑛業ニ著手ノ日ヨリ三十日以前ニ差出シテ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

- 一 業務ノ種類等級
 - 二 雇傭及解雇
 - 三 各種類及各等級ニ於ケル賃金
 - 四 賃金支拂期日
 - 五 各種類ノ就業時間並其ノ交替ノ方法
 - 六 休業日其ノ他休業ニ關スル事項
 - 七 年齢及婦女幼者ノ勞役ニ關スル制限
 - 八 賞罰ノ定アルトキハ其ノ事項
- 第六十五條 鑛夫名簿ハ鑛業ニ著手ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ調製シ鑛夫ノ氏名生年月日本籍

履歷ノ要領、業務ノ種類、等級、雇備及解雇ノ年月日並雇備期間ヲ記載スヘシ
 前項ノ事項ニ異動アリタルトキハ遲滞ナク之ヲ記入スヘシ
 第六十六條 鑛業法第八十條ノ規定ニ依ル扶助ニ付テハ左ノ標準ニ依リ扶助規則ヲ定メ、鑛業ニ著手ノ日ヨリ三十日以前ニ之ヲ差出シ、鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ
 一 診察費及治療費ハ其ノ實額
 二 療養ノ爲休業中ハ其ノ日數ニ相當スル賃金額ノ三分ノ一以上
 三 葬祭料ハ十圓以上
 四 遺族扶助料ハ死者ノ受ケタル賃金百日以上ニ相當スル金額
 五 不具廢疾者扶助料ハ其ノ賃金ノ百日以上ニ相當スル金額
 稼高ニ依リテ賃金ヲ定ムル場合ニ於テハ前項第二號第四號及第五號ニ記載シタル賃金ハ前三十日間ノ就業平均額ニ依リテ之ヲ定ムヘシ
 第六十七條 鑛業權者ハ便宜ノ方法ヲ以テ鑛業法中鑛夫ニ關スル規定鑛夫ノ雇備勞役ニ關スル規則及扶助規則ヲ鑛夫ニ告知スヘシ
 第六十八條 鑛業法第九十條第一項又ハ第九十二條第一項ノ規定ニ依ル申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ、請求地ニ於ケル工事又ハ鑛床ノ關係圖、竝所有者及關係人又ハ鄰接鑛業權者ト交渉シタル始末書ヲ添附スヘシ
 一 申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
 二 所有者及關係人又ハ鄰接鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所
 三 鑛業權ノ登録番號

四 申請ノ目的及理由
 鑛山監督署長前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ所有者及關係人又ハ鄰接鑛業權者ニ交付スヘシ
 所有者及關係人又ハ鄰接鑛業權者ハ申請書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ答辯書ヲ差出スヘシ
 所有者及關係人又ハ鄰接鑛業權者前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ鑛山監督署長ハ申請書ノミニ依リテ裁決スルコトヲ得
 申請人第六條ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキハ申請書ヲ却下ス
 裁決書ニハ理由ヲ附シテ鑛山監督署長之ヲ申請人、所有者及關係人、鄰接鑛業權者ニ交付スヘシ
 第六十九條 鑛業法第九十條第二項又ハ第九十二條第二項ノ規定ニ依ル訴願ニハ鑛山監督署長ノ與ヘタル裁決書ノ謄本ヲ添ヘテ差出スヘシ
 前條ノ規定ハ前項ノ訴願ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第七十條 鑛業法第八十九條第九十條第二項第九十一條及第九十二條第二項ノ規定ニ依リテ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起シタル者ハ七日以内ニ其ノ旨ヲ鑛山監督署長ニ届出ヘシ
 第七十一條 鑛業法第九十三條第二項ノ規定ニ基ク處分又ハ裁決ノ公示ハ官報ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第三十九條ノ規定ニ依ル却下ニ付テハ鑛山監督署ノ揭示場ニ揭示スルコトニ依リテ之ヲ爲ス
 第七十二條 第二十六條第二十七條、第四十條乃至第四十二條、第四十九條、第五十一條、第五十二條、第五十五條第六十一條第六十三條、第六十七條第七十條、第八十一條、第八十六條及第八十七條ノ規定ニ違背シタル者第二十四條ノ規定ニ基ク指定ノ期日ニ立會ハス若ハ調査事項ノ説明ヲ

爲ササル者第三十七條ノ規定ニ依リテ命セラレタル期限内ニ登録申請ヲ爲ササル者又ハ第六十六條第九十條ノ規定ニ依ル扶助規則ヲ差出ササル者若ハ第八十九條ノ規定ニ依リ扶助規則ヲ改定セサル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十三條 第五十四條ノ規定ニ依リテ鑛業代理人ヲ定メタル場合ニハ鑛業權者法定代理人又ハ法人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス

附則

第七十四條 本則ハ第七十二條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ準用ス

第七十五條 本則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十六條 鑛業條例ノ施行ニ關スル農商務省令及農商務省告示ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七十七條 鑛業條例ノ施行ニ關スル農商務省令及農商務省告示ニ依リテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本則中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本則ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十八條 本則施行前ニ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ニシテ鑛業法及本則中ニ別段ノ定ナキモノニ付テハ鑛業條例ノ施行ニ關スル農商務省令及農商務省告示ノ規定ヲ適用ス

第七十九條 鑛業條例第四十六條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル出願ニシテ抵當權者ノ承諾書ヲ添ヘタルモノニ付テハ鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ附シテ抵當權ノ順位ニ關スル協定書ヲ差出サシムルコトヲ得

第八十條 本則施行前ニ明治三十二年農商務省令第三號ノ規定ニ依リテ鑛業總代人ト看做サレタル者ハ本則ノ規定ニ依リテ定メタル代表者ト看做ス

第八十一條 本則施行前ヨリ引續キ鑛業ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ十日以内ニ鑛區所在地又ハ

其ノ附近ニ鑛業事務所ヲ定メ鑛山監督署長ニ届出ヘシ

第八十二條 本則施行前試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得タル者ニ付テハ第四十三條ノ期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八十三條 本則施行前ヨリ引續キ採掘ヲ爲ス者ハ明治三十八年十一月末日迄ニ第四十四條ノ規定ニ依リテ調製シタル施業案ヲ差出スヘシ

第八十四條 明治三十二年農商務省令第三號ノ規定ニ依ル鑛業代理人ハ本則ノ規定ニ依ル鑛業代理人ト同一ノ權限ヲ委任セラレタルモノト看做ス

第八十五條 鑛業條例第四十八條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用スル者ハ本則施行ノ日ヨリ九十

日以内ニ土地ノ名稱種目及使用ノ目的ヲ記載シタル届書ニ關係地實測圖、工事設計書及使用ノ權利ヲ證スル書面ヲ添ヘテ差出スヘシ

第八十六條 鑛業條例第六十四條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ得タル鑛夫使役規則中第六十四條ニ

規定シタル事項ニ付其ノ規定ヲ異ニスルモノアルトキハ採掘權者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ改定シテ許可ヲ受クヘシ

第八十七條 鑛業條例第七十條ノ規定ニ依リテ調製シタル鑛夫名簿中第六十五條ニ規定シタル事項ニ付其ノ規定ヲ異ニスルモノアルトキハ本則施行ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ改定スヘシ

第八十八條 本則施行前ヨリ引續キ試掘ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第六十五條ノ規定ニ依リテ鑛夫名簿ヲ調製スヘシ

第八十九條 鑛業條例第七十二條ノ規定ニ依リ認可ヲ得タル鑛夫救恤規則中第六十六條ニ規定シタル事項ニ付其ノ規定ヲ異ニスルモノアルトキハ採掘權者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ之

ヲ改定シテ許可ヲ受クヘシ但シ改定前ニ扶助ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ給與金額ハ第六十六條ニ定メタル最低額ヲ下ルコトヲ得ス

第九十條 本則施行前ヨリ引續キ試掘ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第六十六條ノ規定ニ依リテ扶助規則ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

第九十一條 鑛業法第十九條ノ規定ニ依ル願書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 事業ノ現狀ヲ詳記セル書類

二 明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引繼キ出願鑛物ヲ採取スルコトヲ證スル書類

様式第一號

何鑛試掘許可願

何府縣郡市町村大字何

面積何坪

右箇所ニ於テ何鑛試掘許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日

住所 出願人 氏 名(名稱)印

何鑛山監督署長氏名殿

注意 一 圖面五葉ヲ添付シ適宜契印スヘシ

二 共同出願ノ場合ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ届書ヲ差出スヘシ但シ願書ニ代表者ヲ表示シテ届出ニ代フルコトヲ得

様式第二號

(採掘ニ在リテハ正副二通)

何鑛試掘(採掘)出願地増減區(増區減區)願

何年何月何日出願

何府縣郡市町村何鑛試掘(採掘)出願地何坪

増區 何都市町村大字何

面積何坪

減區 何都市町村大字何

面積何坪

合計(又ハ差引)何坪

右試掘(採掘)出願地鑛變更許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日

住所 出願人 氏 名(名稱)印

何鑛山監督署長(農商務大臣)氏名殿

注意 一 圖面五葉ヲ添付シ適宜契印スヘシ

二 代表者ニテ出願スル場合ハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添付スヘシ

様式第三號

(採掘ニ在リテハ正副二通)

何鑛試掘(採掘)鑛區増減區(増區減區)願

何府縣(郡)試掘(採掘)標登録第何 號

何府縣郡市町村何鑛試掘(採掘)鑛區何坪

増區 何都市町村大字何

面積何坪

減區 何都市町村大字何

面積何坪

合計(又ハ差引)何坪

右試掘(採掘)鑛區變更許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日

住所 試掘(採掘)標者 氏 名(名稱)印

何鑛山監督署長(農商務大臣)氏名殿

注意 事項様式第二號ニ同シ

樣式第四號 (採掘ニ在リテハ正副二通)

何鑛試掘(採掘)鑛區改正願

何府縣(郡)試掘(採掘)權登錄第何 號
何府縣(郡)市町村內何鑛試掘(採掘)鑛區何坪
增區 何郡市町村大字何
面積何坪
減區 何郡市町村大字何
面積何坪
合計(又ハ差引)何坪

右試掘(採掘)鑛區ニ關スル何號御命令ノ通告正許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日

何鑛山監督署長(農商務大臣)氏名殿

住所 試掘(採掘)權者 氏 名(名稱)印

樣式第五號 (採掘ニ在リテハ正副二通)

試掘(採掘)鑛種名更正願

何府縣(郡)試掘(採掘)權登錄第何 號
右試掘(採掘)權ノ鑛種ハ何號トシテ登錄相成候處何號ト更正許可相成度別紙理由書相添此段相願候也

樣式第六號 (採掘ニ在リテハ正副二通)

試掘(採掘)出願人變更願

何府縣(郡)市町村內何鑛試掘(採掘)出願地何坪
右試掘(採掘)出願人何某ニ變更致候間新舊出願人連署此段届出候也

住所 試掘(採掘)權者 氏 名(名稱)印

年月日

何鑛山監督署長(農商務大臣)氏名殿

住所 舊出願人 氏 名(名稱)印
住所 新出願人 氏 名(名稱)印

注意 一 新出願人二人以上ナル場合ニハ屆書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ届書ヲ差出スヘシ但シ本屆書ニ代表者ヲ表シテテ届出ニテフルコトヲ得
二 舊出願人代表者ニテ届出ヲ爲スニハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第七號 (採掘ニ在リテハ正副二通)

試掘(採掘)出願相續願

何年何月何日出願
何府縣(郡)市町村內何鑛試掘(採掘)出願地何坪
右試掘(採掘)出願人何某死亡其ノ他相續ノ原因ヲ記載スニ因リ相續致候間戸籍抄本(又ハ相續ニ關スル證明書)相添此段届出候也

住所 相續人 氏 名印

年月日

何鑛山監督署長氏名殿

樣式第八號 (採掘ニ在リテハ正副二通)

共同試掘(採掘)出願人脱退願

何年何月何日出願
何府縣(郡)市町村內何鑛試掘(採掘)出願地何坪
右共同出願人何某何(脱退ノ原因ヲ記載ス)ノ爲脱退致候間別紙何(脱退ノ原因ヲ記スル書面)相添此段届出候也

住所 代表者 氏 名(名稱)印

年月日

何鑛山監督署長氏名殿

様式第九號 (正副二通)

何鐵探掘許可願

何府縣郡市町村大字何

面積何坪

右箇所於何鐵探掘許可相成度圖面並鐵床枕明書相添此段相願候也

年月日

農商務大臣氏名殿

(注意事項様式第一號二同)

様式第十號 (正副二通)

何鐵探掘出願地(鐵區)訂正願

何年何月何日出願(何府縣郡)探掘權登錄第何號

何府縣郡市町村何鐵探掘出願地(鐵區)何坪

増區 何郡市町村大字何

面積何坪

減區 何郡市町村大字何

面積何坪

合計(又ハ差引)何坪

右探掘出願地(鐵區)訂正許可相成度圖面並訂正理由書相添此段相願候也

年月日

農商務大臣氏名殿

注意 一 圖面五葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

二 鐵床法第二十五條ニ依ル出願ノ場合ハ理由書ヲ要セス但シ此ノ場合ニ於テハ命令何號ニ依ルモノナルコトヲ記

住所 出願人(探掘權者)氏 名(名稱)印

住所 出願人氏 名(名稱)印

様式第十一號 (正副二通)

何鐵探掘鐵區合併願

一 何府縣郡)探掘權登錄第何 號

何府縣郡市町村何鐵探掘鐵區何坪

二 何府縣郡)探掘權登錄第何 號

何府縣郡市町村何鐵探掘鐵區何坪

合計 何坪

右鐵區合併許可相成度圖面並合併理由書相添此段相願候也

年月日

農商務大臣氏名殿

注意 一 圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

二 抵當權ノ設定アル場合ハ抵當權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ

三 二以上ノ抵當權ノ登錄アル場合ニハ承諾書ノ外抵當權ノ順位ニ關スル協定書ヲ添附スヘシ

四 代表者ニテ出願スル場合ハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

様式第十二號 (正副二通)

何鐵探掘鐵區分割願

何府縣郡)探掘權登錄第何 號

何府縣郡市町村何鐵探掘鐵區何坪

此分割

何府縣郡市町村何

面積何坪

何府縣郡市町村何

面積何坪

右鐵區分割許可相成度分圖面並分劃理由書相添此段相願候也

住所 探掘權者 氏 名(名稱)印

農商務大臣氏名殿

住所 採掘權者 氏 名(名稱)印

年月日

樣式第十三號 (正副二通)

鐵業法第三十六條ニ依ル何鐵採掘鐵區訂正願

何府縣(郡)採掘權登錄簿何 號

何府縣郡市町村內何鐵採掘鐵區何坪

增區 何府縣郡市町村內

面積何坪

右鐵區ノ鐵床ハ何府縣(郡)採掘權登錄簿何號何鐵採掘鐵區ノ未採掘鐵床ト聯絡シ且該鐵區ノ目的タル鐵床ト與ナルニ依リ訂正許可相成度別紙圖面鐵床圖 鐵床說明書並訂正區域內鐵業權者ノ承諾書相添此段相願候也

年月日

住所 採掘權者 氏 名(名稱)印

農商務大臣氏名殿

注意(一) 圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

樣式第十四號 (五通)

何鐵採掘鐵區圖 縮尺 何分ノ一

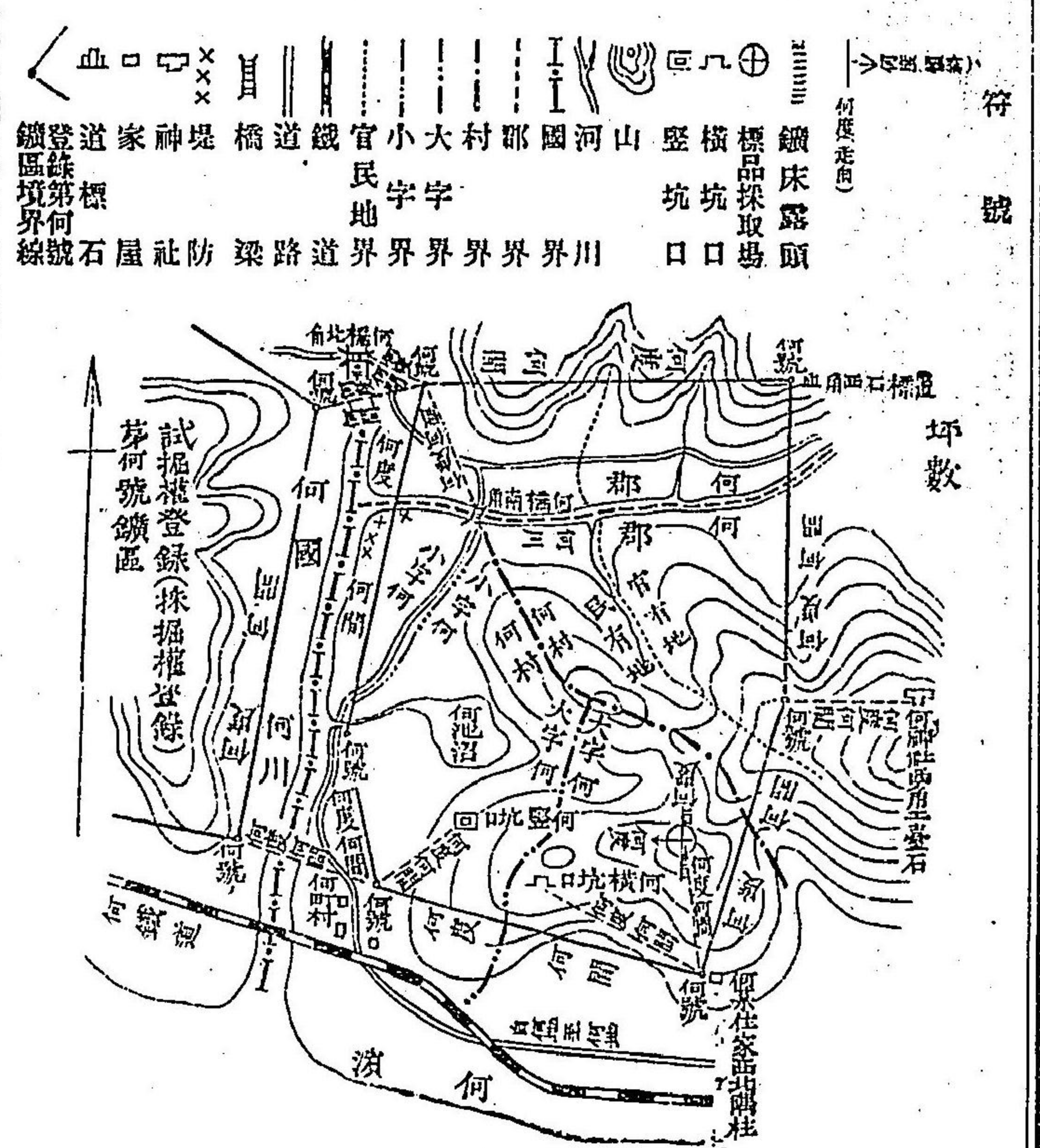
何府縣(郡)何町何大字何

小字何 官地又ハ民地地種地目

明治 年月 日出願

住所 出願人 氏 名印

住所 測量者 氏 名印



- 符號
- 一 圖面用紙ハ摺水引美濾紙ヲ用フヘシ
 - 二 圖面ニ地目別ヲ顯スニハ左記ノ諸色ヲ用フヘシ
 - 三 山林(綠色) 原野(鼠色) 田(淡藍色) 畑(黃色) 宅地(褐色) 水流(藍色)
 - 四 基點又ハ不動物體ハ特種アル橋梁家注川股標石 其ノ他近傍ニアル顯著ニシテ移動セサルモノヲ擇フヘシ
 - 五 縮尺ハ三千分ノ一又ハ六千分ノ一ニ調製スヘシ
 - 六 鐵山監督署ノ下附圖ニ依リテ調製シタル圖面ニハ測量者ノ氏名ヲ記載スルコトヲ要セス

樣式第十五號甲

何縣(何郡)採掘權登錄簿何號又ハ特許第何號

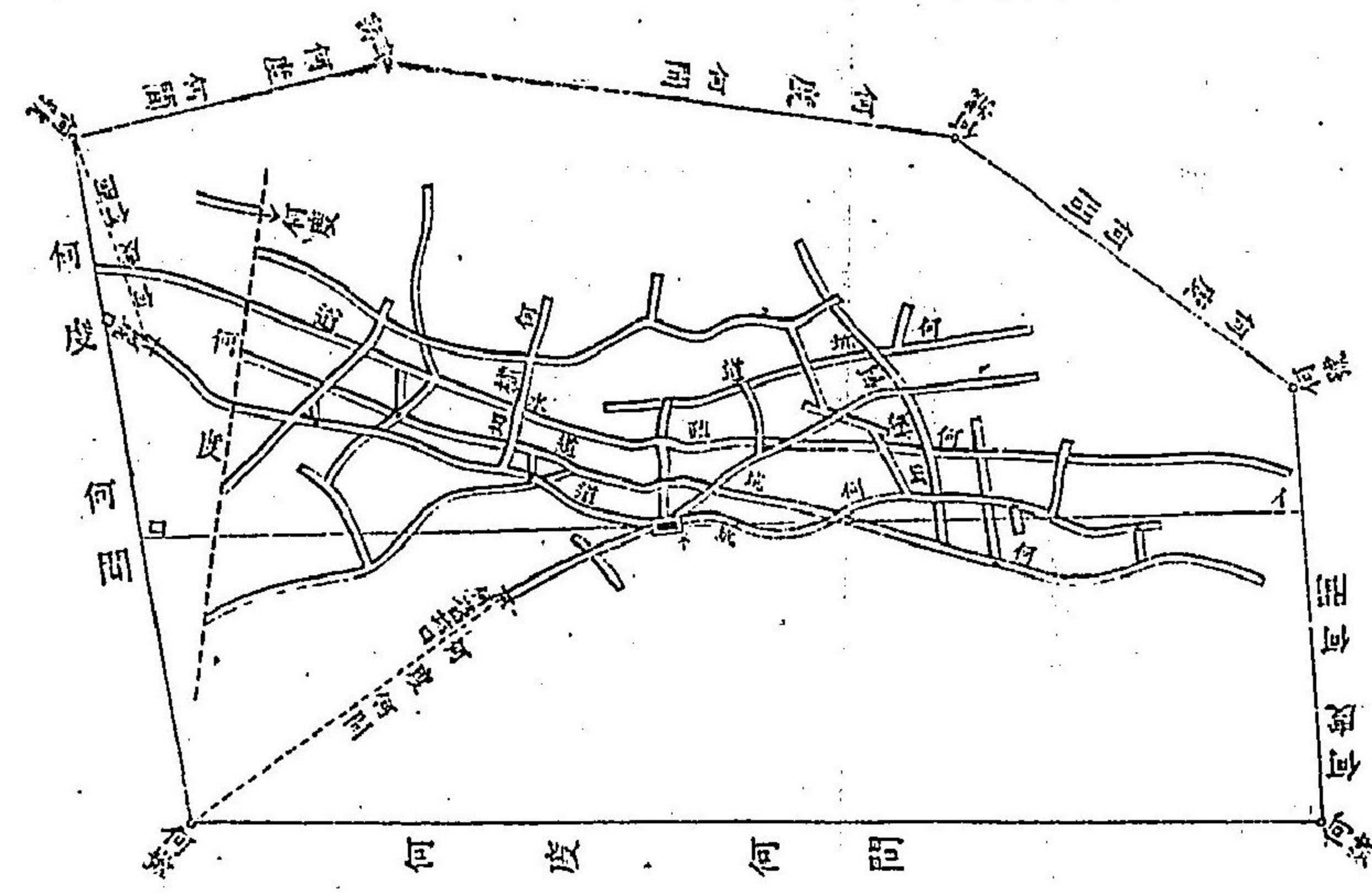
何府縣(郡)何町何何鐵山

住所 採掘權者 氏 名印

住所 測量者 氏 名印

坑內實測平面圖 縮尺 何分ノ一

- 符號
- 一 續區境界線
 - 二 坑口
 - 三 坑外堅坑口
 - 四 坑
 - 五 堅坑捲揚機械
 - 六 井
 - 七 斷層
 - 八 層筒



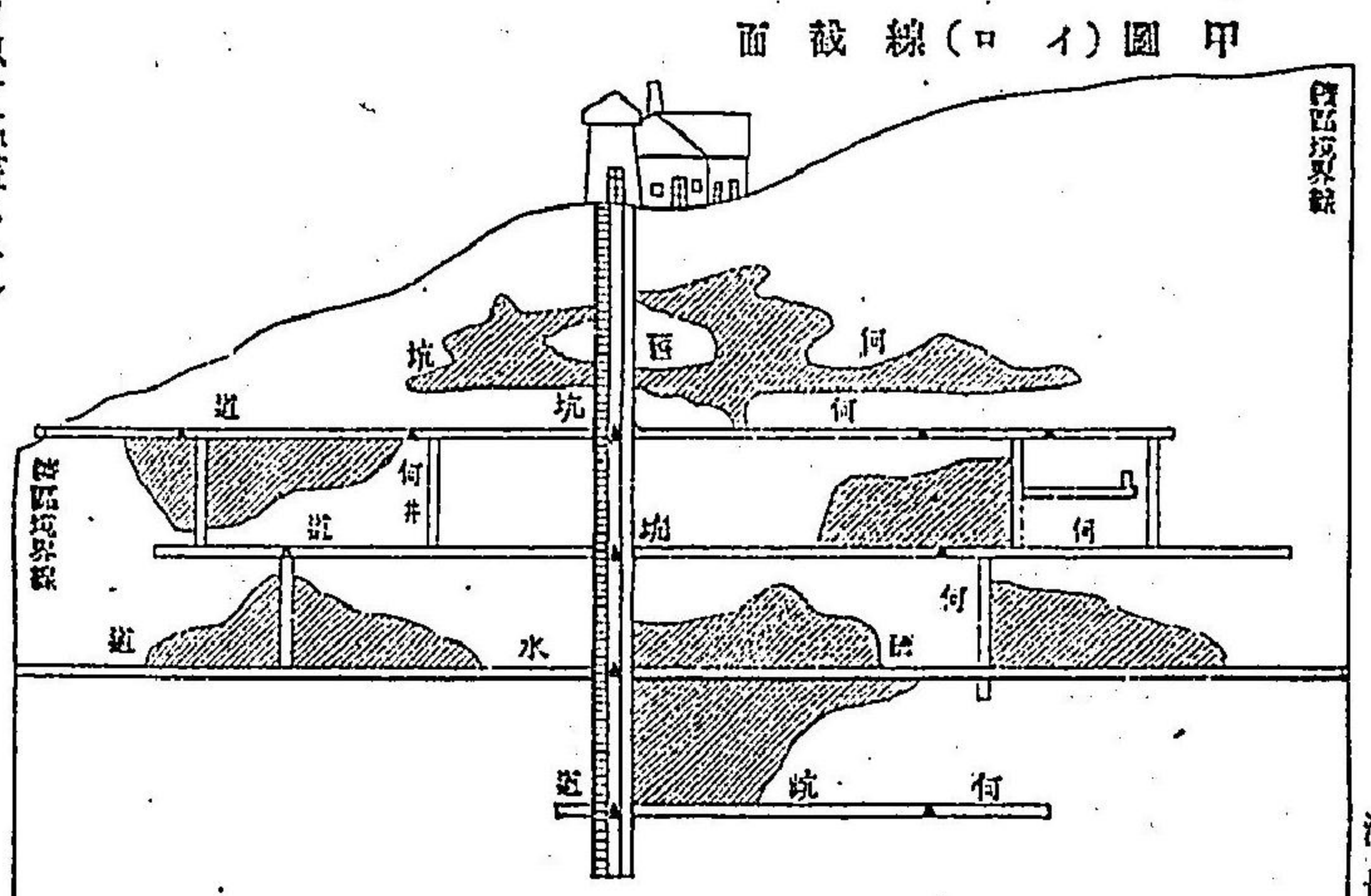
- 注意
- 一 坑道ノ上下段ハ色分ラテテ區別スヘシ
 - 二 軌道ヲ敷設シタル坑道又ハ機械等設置ノ場所ニシテ本圖ノ尺度ニテ圖上ニ顯シ難キモノハ適宜ノ尺度ヲ用フヘシ
 - 三 圖面縮尺ハ千二百分ノ一ニ調製スヘシ
 - 四 木造堰ハ黄色ニ煉瓦堰ハ赤色ニ色分ラナスヘシ

様式第十五號乙

何縣(何郡)採掘權登錄第何號(又ハ特許第何號)
何村何國何郡何村何礦山

坑内實測截面圖 縮尺何分ノ一

- 符號
- 一 採掘場
 - 二 壱坑
 - 三 横切
 - 四 梯子



採掘權者 住 氏 名印
測量者 住 氏 名印

- 注意
- 一 坑道ノ上下段ハ色分ラテテ區別スヘシ
 - 二 軌道ヲ敷設シタル坑道又ハ機械等ニシテ本圖ノ尺度ニテ圖上ニ顯シ難キモノハ適宜ノ尺度ヲ用フヘシ
 - 三 圖面縮尺ハ千二百分ノ一ニ調製スヘシ
 - 四 木造堰ハ黄色ニ煉瓦堰ハ赤色ニ色分ラナスヘシ

様式第十六號(石炭礦ノ分)

何縣(何郡)採掘權登錄第何號(又ハ特許第何號)
何村何國何郡何村何礦山

鑛業登錄令施行細則

第一章 登錄ニ關スル帳簿

- 第一條 鑛業原簿ハ第一號及第二號ノ様式ニ依リテ之ヲ調製スヘシ
- 第二條 鑛業原簿ハ府縣ノ區畫ニ依リ北海道ニ付テハ國ノ區畫ニ依リ別冊ト爲スヘシ但シ登錄事件夥多ナル府縣又ハ國ニ付テハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ二箇以上ノ別冊ト爲スコトヲ得
- 第三條 鑛業原簿ハ二鑛區ニ付テ用紙ヲ備フ
- 鑛區カ鑛業原簿ヲ分設シタル數箇ノ區畫ニ跨ルトキハ其ノ二箇ノ區畫ノ鑛業原簿ニノミ其ノ鑛區ニ關スル用紙ヲ備フ
- 第四條 共同人名簿ハ第三號及第四號ノ様式ニ依リテ之ヲ調製スヘシ
- 第五條 共同人名簿ハ數區畫ヲ通シテ一冊ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業原簿ヲ分設シタル區畫毎ニ見出シ附スヘシ
- 第六條 鑛區圖綴込帳ハ各圖面ニ申請書受附ノ年月日及受附番號並登錄番號ヲ記載シ登錄番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シテ丁數ヲ附スヘシ
- 第七條 試掘原簿及採掘原簿ニ付各其ノ見出帳ヲ設クヘシ
- 前項ノ見出帳ハ數區畫ヲ通シテ一冊ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業原簿ヲ分設シタル區畫毎ニ見出シ附スヘシ
- 第八條 鑛業原簿見出帳ハ第五號及第六號ノ様式ニ依リテ之ヲ調製スヘシ
- 第九條 鑛業原簿見出帳ニハ登錄用紙ニ登錄番號ヲ記載スル毎ニ其ノ登錄用紙ヲ編綴セル鑛業原簿ノ冊數丁數及登錄番號ヲ記入スヘシ

第十條 鑛業權消滅ノ登錄ヲ爲シタルトキハ鑛業原簿見出帳ニ事由ヲ記入シ前條ノ記入事項ヲ抹消スヘシ

第十一條 登錄受附帳ハ第七號様式ニ依リ毎年之ヲ調製シ受附番號ヲ更新スヘシ

第十二條 鑛山監督署ニハ登錄事務ニ關シ鑛業原簿共同人名簿鑛區圖綴込帳鑛業原簿見出帳及

登錄受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

- 一 申請書屬託書附屬書類綴込帳
 - 二 通知書綴込帳
 - 三 通知簿
 - 四 鑛業原簿謄本綴込帳
 - 五 鑛業權抵當權登錄通知簿
 - 六 異議書類決定原本綴込帳
 - 七 謄本抄本交付閱覽申請事件簿
 - 八 謄本抄本交付閱覽申請書綴込帳
- 第十三條 前條第三號及第五號ノ通知簿ニハ通知事項ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ
- 第十四條 鑛業原簿ノ謄本抄本若ハ鑛區圖謄本ノ交付又ハ鑛業原簿若ハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スヘシ
- 一 申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
 - 二 鑛區所在地及登錄番號又ハ鑛區ヲ表示スルニ足ルヘキ事項
 - 三 申請ノ範圍

四 年月日

第十五條 前條ノ申請アリタルトキハ第十二條第七號ノ帳簿ニ請求ノ範圍申請人ノ氏名又ハ名稱受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シタル上相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第十六條 鑛業原簿ノ謄本ハ鑛業原簿ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作成シ其ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ鑛山監督署長之ニ年月日ヲ記載シテ記名捺印スヘシ

此ノ謄本ハ鑛業原簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ鑛區圖ノ謄本及鑛業原簿ノ抄本ヲ作成スル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 鑛業原簿ノ謄本抄本又ハ鑛區圖ノ謄本ヲ交付スルトキハ第十二條第七號ノ帳簿ニ交付ノ年月日ヲ記載シ謄本又ハ抄本ト契印スヘシ

前項ノ規定ハ鑛業原簿ノ謄本ヲ他ノ鑛山監督署ニ移送スル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 鑛業原簿ヲ分設シタル區畫カ他ノ鑛山監督署ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ全部ノ場合ニ在リテハ其ノ區畫ニ關スル鑛業原簿及其ノ附屬書類ヲ一部ノ場合ニ在リテハ其ノ部分ニ於ケル鑛業權ニ關スル鑛業原簿ノ謄本及附屬書類若ハ其ノ謄本ヲ移送スヘシ

第二章 申請手續

第十九條 登録申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ登録権利者又ハ登録義務者カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル

前項ニ依ル契印ナキモノニ付テハ擔當職員ニ於テ契印ヲ爲スヘシ

第二十條 數箇ノ鑛山監督署ノ管轄ニ屬シタル鑛區ニ關シ同一ノ登録原因ニ因ル抵當權設定ノ登録ヲ申請スル場合ニハ最初ニ登録ヲ申請スル鑛山監督署ニ登録稅ノ全額ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ從ヒ登録稅ヲ納付シタルトキハ擔當職員ハ登録ヲ申請スヘキ鑛山監督署ノ數ニ應ジ登録稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

申請人カ他ノ鑛山監督署ニ登録ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添付スヘシ

前三項ノ規定ハ同一ノ登録原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限ノ登録ヲ囑託スル場合ニ之ヲ準用ス

第三章 登録手續

第二十一條 申請書ノ提出アリタルトキハ登録受附帳ニ登録ノ目的申請人ノ氏名又ハ名稱受附ノ年月日及受附番號ヲ申請書ニ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スヘシ但シ申請人カ郵便ニ依リ申請シタル場合ニ於テ其ノ郵便物ノ到達カ執務時間外ニ係ルトキハ郵便物ノ表面ニ登録申請ナルコトヲ明記シタルモノニ限り其ノ到達ノ時ヲ以テ受附ノ時ト看做ス

前項受附番號ハ受附ノ順序ニ依リ之ヲ附スヘシ但シ同一ノ鑛業權又ハ抵當權ニ關シテ同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ附スヘシ

第一項ニ依リ申請人ノ氏名又ハ名稱ヲ記載スル場合ニ於テ登録権利者又ハ登録義務者カ多數ナルトキハ代表者又ハ筆頭者ノ氏名若ハ名稱及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第二十二條 登録番號欄ニハ各鑛區ニ付試掘原簿又ハ採掘原簿ニ登録ヲ爲シタル順序ヲ記載スヘシ

表示欄ニハ鑛業權ノ表示ヲ爲シ其ノ變更及消滅ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

試掘原簿ニ在リテハ事項欄ニ試掘權ノ設定、移轉、處分ノ制限及共同礦業權者ノ脱退ニ關スル事項ヲ順位番號欄ニ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ採掘原簿ニ在リテハ申區事項欄ニ採掘權ノ設定、移轉、處分ノ制限及共同礦業權者ノ脱退ニ關スル事項ヲ、乙區事項欄ニ抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ、順位番號欄ニ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

第二十三條 表示欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日登錄ノ目的其ノ他礦業權ノ表示ニ關スル事項並登錄ノ年月日ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ

事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登錄權利者ノ氏名又ハ名稱、住所、登錄原因及其ノ日附、登錄ノ目的其ノ他登錄スヘキ權利ニ關スル事項並登錄ノ年月日ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ

第二十四條 表示欄ニ登錄ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ、事項欄ニ登錄ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記載スヘシ

第二十一條 第二項但書ノ規定ニ依リ同一ノ受附番號ヲ附シ同一ノ事項欄ニ登錄ヲ爲スモノニ付テハ同一ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第二十五條 表示欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ縱線ヲ劃シ事項欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第二十六條 附記登錄ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登錄ノ番號ヲ用井其ノ番號ノ左側ニ附記何號ト記載スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ主登錄ノ順位番號ノ左側ニ附記登錄番號ヲ記載スヘシ

第三十七條 假登錄ハ登錄用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ其ノ左側ニ餘白ヲ存スヘシ

第三十八條 假登錄ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縱線ヲ劃シ其ノ左側ニ本登錄ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃スヘシ

第三十九條 假登錄ヲ爲シタル後本登錄ノ申請アリタルトキハ假登錄ノ左側ノ餘白ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ

第二十條 豫告登錄ハ礦業登錄令第五十二條第一號ニ關スルモノニ付テハ登錄用紙中相當區事項欄ニ同條第二號ニ關スルモノニ付テハ表示欄ニ之ヲ爲スヘシ

第三十二條 變更又ハ更正ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ登錄ニ因リテ變更又ハ更正セラレタル登錄事項ヲ先抹スヘシ

第三十三條 登錄ヲ完了シタルトキハ登錄原因ヲ證スル書面ニ登錄番號、申請書受附ノ年月日、順位番號及登錄簿ノ旨ヲ記載シ、礦山監督署ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ登錄權利者ニ還付シ且登錄義務者ニハ登錄番號登錄ノ原因及其ノ日附、登錄ノ目的、申請書受附ノ年月日、順位番號及登錄簿ノ旨ヲ記載シ、礦山監督署ノ印ヲ捺捺シタル書面ヲ交付スヘシ但シ登錄義務者多數ナルトキハ其ノ一人ニ交付スルヲ以テ足ル

礦業ニ關スル出願ノ許可ニ因ル登錄ノ場合ニ於テハ礦山監督署長ノ通知書ニ前項ニ準シタル記載ヲ爲シ、礦山監督署ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ登錄權利者ニ交付スヘシ

第三十三條 礦業權消滅ノ登錄ヲ爲シタル後登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ爲スニハ登錄用紙中登錄番號欄ニ新ナル番號ヲ、其ノ左側ニ前登錄番號ヲ、表示欄ニ回復ノ原因ヲ記載シ、其ノ消滅前ノ登錄ト同一ノ登錄ヲ爲スヘシ

第三十四條 前條ニ規定シタル場合ヲ除クノ外登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ回復スルトキハ回復ノ登錄ヲ爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登錄ト同一ノ登錄ヲ爲シテ登錄事項ノ一部ノミカ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其ノ事項ヲ登錄スヘシ

第三十五條 第十八條ニ依リ鑛業原簿原本ノ移送ヲ受ケタルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ原本ニ依リ相當鑛業原簿ニ登錄ヲ移スヘシ

鑛業原簿ヲ移ストキハ登錄用紙中登錄番號欄ニ新ナル番號ヲ其ノ左側ニ前登錄區畫及前登錄番號ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登錄ノ末尾ニ鑛業原簿ノ原本ニ依リ登錄ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

他ノ鑛業原簿ニ登錄ヲ移シタルトキハ前登錄用紙中表示欄及事項欄ニ他ノ鑛山監督署ノ鑛業原簿ニ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

第三十六條 同一鑛山監督署ノ管轄ニ屬スル鑛區カ他ノ登錄區畫ニ轉屬シタルトキハ其ノ鑛業原簿ニ登錄ヲ移スヘシ

前條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條 登錄用紙中部又ハ區カ登錄ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中登錄番號欄ニ前用紙ノ登錄番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ第二ナルコト、前用紙ヲ編綴セル鑛業原簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナル旨ヲ記載シ且前用紙ノ登錄番號ノ左側ニ其ノ第一ナルコト、新用紙ヲ編綴セル鑛業原簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ但シ前用紙中其ノ餘白アルモノニ付テハ仍之ニ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條 登錄ノ申請書ニ圖面ヲ添附シタル場合ニ於テハ登錄用紙中表示欄ニ爲シタル登錄ノ末尾ニ鑛區圖級込帳ノ冊數及丁數ヲ記載スヘシ

第三十九條 鑛業權ノ設定又ハ移轉ニ關スル登錄ノ申請ニ付登錄權利者多數ナルトキハ代表者ノミノ氏名又ハ名稱及住所並其ノ代表者ナルコトヲ登錄用紙ニ、共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所並代表者ノ氏名又ハ名稱ヲ共同人名簿ニ記載スヘシ

共同鑛業代表者改定ノ届出又ハ指定アリタルトキハ前項ニ準シテ其ノ登錄ヲ爲シタル後前ノ代表者ノ表示ヲ抹スヘシ

第四十條 前條ノ規定ニ依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ、代表者欄ニ代表者ノ氏名又ハ名稱及其ノ届出又ハ指定ノ年月日ヲ、共同人名欄ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ備考欄ニ登錄番號及順位番號ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ

第四十一條 共同鑛業權者ノ表示ノ變更、更正又ハ脱退ニ付鑛業原簿ニ登錄ヲ爲シタルトキハ共同人名簿中備考欄ニ登錄ノ目的タル新ナル事項及其ノ順位番號ヲ記載シ擔當職員捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ抹スヘシ

第四十二條 前三條ノ場合ニ於テ代表者欄又ハ備考欄ニ餘白ナキニ至リタルトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ其ノ第一ナルコト、前用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナル旨ヲ、共同人名欄ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シ且前用紙ノ番號ノ左側ニ其ノ第一ナルコト、繼續用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ但シ前用紙中其ノ餘白アルモノニ付テハ仍之ニ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設タル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ鑛業原簿ニ爲シタル登錄ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第四十四條 共同人名簿ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所ノ記載ヲ爲シタルトキハ共同人名簿ニ於ケル末尾ノ縦線ヲ番號欄代表者欄及備考欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ

第四十五條 數箇ノ採掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ一箇ノ採掘權ニ付抵當權設定ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ採掘權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ他ノ採掘權ノ登錄番號及鑛區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第四十六條 前條ノ場合ニ於テ其ノ一箇ノ採掘權又ハ抵當權ノ消滅ノ登錄ヲ爲シタルトキハ他ノ採掘權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ其ノ抵當權消滅シタル旨ヲ附記シ消滅ニ係ル登錄事項又ハ抹消スヘシ

第四十七條 數箇ノ鑛山監督署ノ管轄ニ屬スル數箇ノ採掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ一箇ノ採掘權又ハ抵當權ノ消滅ノ登錄ヲ爲シタルトキハ鑛山監督署長ハ關係鑛山監督署長ニ消滅ノ事由及申請書受附ノ年月日ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ準シテ其ノ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

第四十八條 登錄ヲ抹消スルニハ抹消ノ登錄ヲ爲シタル後抹消スヘキ登錄ヲ抹消スヘシ

第四十九條 鑛業法第四十二條及第四十三條ノ規定ニ基キテ爲シタル競賣ニ因ル採掘權移轉ノ登錄ノ囑託アリタル場合ニ於テハ第三十三條ノ規定ニ準シ登錄ヲ爲シタル後移轉ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前登錄用紙ノ表示欄ニ新登錄用紙ニ登錄ヲ移シタル旨ヲ記載スヘシ

第五十條 第十八條又ハ鑛業登錄令第二十三條ノ場合ニ於テ鑛業原簿ノ表紙ニ記載シタル鑛山監督署又ハ行政區畫ノ名稱ノ變更アリタルトキハ其ノ表紙ニ其ノ名稱ノ變更アリタルコト及其ノ年月日ヲ記載シ且其ノ名稱ヲ變更スヘシ

附則

第五十一條 本則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條 鑛業登錄令第六十三條ノ規定ニ依リ舊鑛業原簿ヨリ登錄ヲ移シタルトキハ表示欄及事項欄ニ移シタル登錄ノ末尾ニ舊鑛業原簿第何册第何丁ヨリ移シタル旨及年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊鑛業原簿ニ鑛業原簿第何册第何丁ニ移シタル旨、其ノ登錄番號及年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

第一號様式

何府縣(國)郡	
試掘原簿	第何册
何鑛山監督署	
紙張表紙ヲ除キ	枚
年月日	何鑛山監督署長
	何 某印

○農商務省令第十九號

鑛業警察規則左ノ通定ム

明治三十八年六月二十二日

農商務大臣男爵清浦奎吾

鑛業警察規則

- 第一條 採掘權者カ技術ニ關スル事項ヲ管理セシムル爲特別ノ管理者ヲ選任又ハ改任シタルトキハ其ノ履歷書ヲ添ヘ直ニ鑛山監督署長ニ届出ヘシ
- 第二條 鑛業法第七十三條ニ依リ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命セラレタル者ハ左ノ資格ヲ有スル者ノ中ニ付候補者ヲ選定シ履歷書ヲ添ヘ農商務大臣ノ認可ヲ申請スヘシ
 - 一 帝國大學卒業業者又ハ之ト同等以上ノ學力經驗ヲ有スル者
 - 二 高等工業學校卒業業者又ハ之ト同等以上ノ學力經驗ヲ有スル者
 - 三 七箇年以上鑛業ニ從事シタル者
- 前項ノ認可ニ基キテ技術管理者ヲ選任又ハ改任シタルトキハ直ニ鑛山監督署長ニ届出ヘシ
- 第三條 技術ニ關スル管理者ハ左ノ權限ヲ委任セラレタルモノト看做ス但シ採掘權者カ其ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ
 - 一 本則ノ規定及本則ノ規定ニ依リテ發シタル命令ニ依リ採掘權者ノ爲スヘキ一切ノ手續其ノ他ノ行爲
 - 二 本則ノ規定ニ依ル係員ノ監督
- 第四條 鑛業權者ハ本則ノ規定ニ依ル係員ヲ選任又ハ改任シタル場合ニハ其ノ履歷書ヲ添ヘ直ニ鑛山監督署長ニ届出ヘシ

第五條 鑛山監督署長ハ本則ノ規定ニ依ル係員ノ選任改任又ハ其ノ増員ヲ命スルコトヲ得

第六條 鑛業ヲ爲スニ當リ過失變災等ニ依リ死傷者ヲ生シタルトキハ鑛業權者ハ遲滞ナク其ノ事由及狀況ヲ鑛山監督署長ニ届出ヘシ死傷者ヲ生セサル場合ト雖事業ノ全部又ハ一部ヲ休止スルヲ要スルニ至リタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ命スル所ニ從ヒ變災ニ對スル處置其ノ經過及結果ヲ鑛山監督署長ニ届出ヘシ

第七條 鑛業權者ハ周知シ得ヘキ方法ヲ以テ本則中鑛夫ニ關スル規定ヲ鑛夫ニ告知スヘシ

第八條 鑛業權者ハ現ニ坑内ニ於テ操業スル鑛夫ノ員數及其ノ姓名ヲ知り得ヘキ方法ヲ設ケ置クヘシ

第九條 鑛業法又ハ本則ニ依リ命セラレタル豫防工事ニ著手シ又ハ之ヲ完成シタル者ハ遲滞ナク鑛山監督署長ニ届出ヘシ

第十條 鑛業ノ全部又ハ一部ヲ廢止セムトスル者ハ豫メ危險ノ虞アル坑口ヲ後害ナキ様ニ閉塞スヘシ

第十一條 鑛夫五十人以上ヲ同時ニ入坑セシムル坑内ニ於テハ其ノ奥部ニ於テ連絡シ且何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シタル二箇以上ノ坑口ヲ設クヘシ

鑛山監督署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ各坑口間ノ距離、連絡坑道ノ數、其ノ裝置及位置ヲ指定スルコトヲ得

鑛山監督署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ鑛夫五十人以下ヲ入坑セシムル坑内ニ於テモ前二項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

- 第十二條 堅坑 坑井又ハ四十度以上ノ斜坑及坑道ノ之ト交叉スル場所ニハ蓋又ハ柵圍ヲ設クヘシ
- 第十三條 通行又ハ運搬ノ用ニ供スル堅坑及主要ノ坑道ニハ通信機ヲ設クヘシ
- 第十四條 堅坑ニ架設スヘキ梯子ノ傾斜ハ八十度以内トシ少クトモ三十尺毎ニ踏棚ヲ設クヘシ
- 第十五條 人ヲ通行セシムル堅坑ニ於テ捲揚ノ裝置ヲ設クル場合ニハ板圍アル梯子道ヲ設クヘシ
- 第十六條 人ヲ昇降セシムル捲揚臺ニハ上蓋ヲ備ヘ且捲揚網ノ切斷及捲揚超過ヨリ生スル危險ニ對スル豫防設備ヲ爲スヘシ
- 前項ノ捲揚臺ヲ支持スル綱索ハ少クトモ總重量ノ十倍ニ耐ユルモノヲ用ウヘシ
- 第十七條 人ヲ通行セシムル坑内ノ自動車道又ハ捲揚車道ニ於テハ軌道ノ一方ニ人道ヲ設クルカ又ハ軌道ノ傍側ニ於テ便宜避害所ヲ設ケ白色ニ塗ラ置クヘシ
- 第十八條 自動車道又ハ捲揚車道ニ使用スル車輛ニハ係鐵夫ノ外乘車スルコトヲ得ス但シ第十六條ノ規定ニ準シテ危險豫防ノ設備ヲ爲シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
- 第十九條 通行又ハ運搬ノ用ニ供スル坑道ハ幅三尺以上高五尺以上ト爲スヘシ
- 第二十條 坑内ニハ衛生上必要ナル分量ノ新鮮空氣ヲ給送スヘシ
- 第二十一條 石炭坑ニ於テハ變災ニ對スル應急ノ設備ヲ爲シ鑛山監督署長ヲ認可ヲ受クヘシ
- 前項ノ設備ハ鑛山監督署長ヲ認可ヲ得附近ノ採掘權者ト共同シテ之ヲ爲スコトヲ得
- 第二十二條 石炭坑内ニ於テハ特種ノ安全燈ニ使用スル場合ノ外燈火用トシテ石油其ノ他揮發性燈油ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第二十三條 石炭坑内ニ於テ新ニ瓦斯ノ發生ヲ認メタルトキハ鑛業權者ハ直ニ鑛山監督署長ニ届

出ヘシ

- 第二十四條 石炭坑ニ於テハ常ニ十箇以上ノ安全燈ヲ備置クヘシ
- 第二十五條 石炭坑ニ於テ瓦斯ノ存在スル場所ニ在リテハ安全燈及電燈ノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第二十六條 瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ在リテハ指定ノ場所ノ外喫煙ヲ爲シ又ハ發火具ヲ携帯スルコトヲ得ス
- 第二十七條 石油坑口又ハ貯油場ノ周圍五間以内ノ場所ニ於テハ發火具 裸火其ノ他危險ナル燈火ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第二十八條 採掘權者ハ保安係員ヲ置キ作業ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ラシムヘシ
- 保安係員ハ採掘ニ關スル場所ニ就キ毎日危險ノ有無ヲ巡檢スヘシ但シ瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ於テハ鑛夫ノ就業前及交替毎ニ之ヲ爲スヘシ
- 保安係員ハ危險ノ虞アリト認メタル場所ニ於ケル作業ヲ中止セシメ且其ノ通行ヲ遮斷シ遲滯ナク之ヲ採掘權者ニ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ更ニ檢査ヲ爲シ安全ト認メタル後ニ非サレハ作業ヲ開始セシメ又ハ其ノ遮斷ヲ解クコトヲ得ス
- 保安係員ハ適當ナル施設ヲ以テ作業休止ノ場所ノ通行ヲ遮斷スヘシ
- 鑛夫ハ通行遮斷ノ場所ニ立入ルコトヲ得ス
- 保安係員ハ特別ノ帳簿ヲ調製シ巡檢毎ニ其ノ狀況ヲ記載スヘシ
- 第二十九條 鑛夫五十人以上ヲ同時ニ入坑セシムル石炭坑ニ於テハ氣壓計及驗溫器ヲ通氣路ノ要所ニ備置クヘシ

氣流ノ通路及方向 通氣用構造物並通氣觀測點ノ位置ハ之ヲ坑内實測圖又ハ特ニ調製シタル通氣圖ニ記入シ置クヘシ

保安係員ハ測風器 氣壓計 驗溫器及安全燈其ノ他瓦斯檢定器ヲ以テ毎日通氣ノ狀況及瓦斯ノ多少ヲ觀測シ特別ニ調製シタル帳簿ニ其ノ結果ヲ記載スヘシ若シ異常アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ探掘權者ニ報告スヘシ

鑛山監督署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ第一項以外ノ鑛山ニモ前三項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第三十條 安全燈ノ使用ヲ必要トスル石炭坑ニ付テハ左ノ規定ヲ適用ス

- 一 探掘權者ハ安全燈係員ヲ置キ安全燈ノ授受及檢査等ニ關スル事項ヲ掌ラシムヘシ
- 二 安全燈係員ハ安全燈ノ檢査ヲ爲シ鎖鑰ヲ施シタル後ニ非サレハ之ヲ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス
- 三 鑛夫ハ安全燈ヲ開キ又ハ之ヲ閉クニ用ウヘキ器具ヲ攜帶スルコトヲ得ス
- 四 探掘權者ハ坑内ニ於テ安全燈ノ毀損シ若ハ燈火ノ滅シタル場合ニ之ヲ交換シ又ハ一定ノ場所ニ於テ點火スルカ爲適當ナル方法ヲ設クヘシ

第三十一條 探掘權者ハ安全燈ノ取扱方ニ關スル規則ヲ定メ且之ヲ鑛夫ニ告知スヘシ

第三十二條 鑛業ヲ爲スニ當リ火藥類ヲ使用スル場合ニハ左ノ規定ヲ適用ス

- 一 鑛業權者ハ火藥係員ヲ置キ火藥類ノ授受及其ノ取締等ニ關スル事項ヲ掌ラシムヘシ
- 二 火藥係員ハ一日間ノ使用見積高ヨリ多量ノ火藥類ヲ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス
- 三 鑛夫ハ火藥類ヲ使用シタル後殘餘アルトキハ直ニ之ヲ火藥係員ニ還付スヘシ
- 四 鑛夫ハ鐵製込棒ヲ以テ裝藥スルコトヲ得ス

五 鑛夫ハ粘土其ノ他發火ヲ誘起スル塵ナキ物ノ外込物トシテ使用スルコトヲ得ス

六 鑛夫ハ導火線ニ點火シタル後爆發セサルトキハ少クトモ十五分間ハ其ノ場所ニ近寄ルコトヲ得ス且此ノ場合ニ於テ其ノ火藥類ハ之ヲ掘出ズコトヲ得ス

七 鑛業權者ハ火藥類ノ取扱方ニ關スル規則ヲ定メ且之ヲ鑛夫ニ告知スヘシ

八 火藥係員ハ火藥類ノ使用ニ關シ特別ノ帳簿ヲ調製シ毎日ノ渡高使用高及還付高ヲ記載スヘシ

第三十二條 鑛業權者ハ左ニ掲グル工作物ヲ開設シ又ハ變更セムトスルトキハ第一號ノモノニ付テハ其ノ設計書及圖面ヲ添ヘ第一號ノモノニ付テハ其ノ使用ノ目的ヲ明記シ豫メ鑛山監督署長ニ届出ヘシ

一 汽罐捲揚器械 鑛場 燒鑛場 製鍊場 又ハ煙突

二 汽機 石油發動機 發電機 電動機 水車 唧筒 通風機

前項第一號ニ掲ケタルモノノ工事ヲ完成シタルトキハ其ノ旨ヲ鑛山監督署長ニ届出テ使用ノ認可ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十三條 鑛業權者ハ機關係員ヲ置キ特別ノ注意ヲ要スル機關並之ニ附屬スル裝置ヲ管守シ及係鑛夫ヲ監督セシムヘシ

鑛業權者ハ機關ノ取扱方ニ關スル規則ヲ定メ之ヲ係鑛夫ニ告知スヘシ

機關係員ハ毎日其ノ管守ニ屬スル機關ヲ監視シ異常アルトキハ直ニ之ヲ鑛業權者ニ報告スヘシ
機關係員ハ特別ノ帳簿ヲ調製シ前項ニ掲ケタル事項其ノ他機關ノ修理又ハ休止等重要ナル事項

十六號電報規則ヲ準用ス但シ諺文電報ニ關シテハ電報規則第百五條乃至第百七條ヲ除クノ外和文電報ニ關スル規定ヲ準用ス

第二條 和文電報ハ片假名數字ヲ通シテ七字以内毎ニ諺文電報ハ同シク三字以内毎ニ一語トス

第三條 通常電報料ハ一語ニ付金十錢トス

第四條 軍事ニ關スル本邦政府ノ官報ハ軍用電信線上ニ在リテハ他ノ官報ニ先ダチ傳送ス

第五條 電信局所在地ニ配達スル電報ハ配達料ヲ要セス

第六條 別使又ハ船舶ヲ以テ配達スヘキ電報ノ配達料ハ別ニ之ヲ告示ス

第七條 返信料前納電報ニシテ和文又ハ諺文一語歐文二語ヲ超ヘテ返信料ヲ前納スルモノハ其ノ略符號ノ次ニ返信ノ語數ヲ附記スヘシ

第八條 本邦ニ宛テ郵送スル和文電報ハ外國郵送電報トス

第九條 和文電報及諺文電報ノ電信受信報知料ハ一通毎ニ二語分ノ通常料金トス

第十條 諺文電報ハ電話加入者ノ使用ニ關スル電話機又ハ電信局所ニ連接スル私設ノ電信電話ヲ以テ發受スルコトヲ得ス但シ公衆通信ノ用ニ供シタル私設電信線ニ在リテハ特ニ之ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

〔參照〕

明治三十三年四月ニ遞信省令第九號ハ在韓國本邦郵便電信局相互間ニ發著スル電報ニ内國電信ノ規定ヲ準用スルノ件ナリ

○遞信省令第四十一號

明治三十三年四月 遞信省令第八號本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電報取扱規則第三條

中「釜山京城及仁川間ニ限リ」ヲ「軍用電信線上ニ在リテハ」ト改メ明治二十八年七月一日ヨリ施行ス

明治二十八年六月十六日

遞信大臣大浦兼武

〔參照〕

遞信省令第八號本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電報取扱規則(明治三十三年四月二十日)抄録

第三條 軍事ニ關スル本邦政府ノ官報ハ釜山京城及仁川間ニ限リ他ノ官報ニ先ダチ傳送ス

○遞信省令第四十二號

韓國内電話ニ關シテハ左記各號ニ依ルモノノ外明治三十年^{十二}遞信省令第三十一號電話交換規則同三十二號電話ニ關スル料金及明治三十六年^八遞信省令第四十號電話呼出規程ヲ準用ス

明治二十八年六月十七日 遞信大臣大浦兼武

- 一 電話開通ノ順序ハ工事共ノ他ノ都合ニ依リ適宜變更スルコトアルヘシ
- 二 一通話時ヲ三分時間トス
- 三 電話ニ關スル料金ハ總テ現金ヲ以テ之ヲ納付スヘシ
- 四 加入登記料及電話使用料

地名	加入登記料	電話使用料年額
釜山	金 十 圓	金 六 十 圓
京城	金 十 圓	金 六 十 圓
仁川	金 十 圓	金 六 十 圓

五 電話料及電話呼出料

地 域	一通話時ノ電話料	一回ノ電話呼出料
釜山電話加入區域内	金 五 錢	金 五 錢
京城電話加入區域内	金 十 錢	
仁川電話加入區域内	金 十 錢	
京城 龍山 間	金 十 錢	金 十 錢
京城 永登浦 間	金 十 錢	金 十 錢
龍山 永登浦 間	金 十 錢	金 十 錢
京城 仁川 間	金 二十 錢	
仁川 龍山 間	金 二十 錢	金 十五 錢
仁川 永登浦 間	金 二十 錢	金 十五 錢

○逓信省令第四十三號
本年六月逓信省令第四十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通追加シ明治三十八年七月一日ヨリ施行ス

明治三十八年六月十九日
龍山永登浦間ノ次ニ左ノ通追加ス

京城 麻浦 間	金 十 錢	金 十 錢
龍山 麻浦 間	金 十 錢	金 十 錢
永登浦 麻浦 間	金 十 錢	金 十 錢
仁川 永登浦 間ノ次ニ左ノ通追加ス		

逓信大臣大浦兼武

京城 水原 間	金 二十 錢	金 十五 錢
仁川 水原 間	金 二十 錢	金 十五 錢
仁川 麻浦 間	金 二十 錢	金 十五 錢
龍山 水原 間	金 二十 錢	金 十五 錢
永登浦 水原 間	金 二十 錢	金 十五 錢
麻浦 水原 間	金 二十 錢	金 十五 錢

○逓信省令第四十四號
明治三十四年逓信省令第十九號在外國郵便及電信局官吏手當給與細則第一號表在勤手當給與年額表中平壤ノ行ノ次ニ左ノ通追加シ該地郵便局設置ノ日ヨリ施行ス

明治三十八年六月二十日
逓信大臣大浦兼武

地 域	一通話時ノ電話料	一回ノ電話呼出料
京城 州	二六〇	四八〇
安州	一〇八〇	三三〇

○逓信省令第四十五號
明治三十七年逓信省令第三十四號在外通信官署官吏在勤手當給與年額表中平壤ノ行ノ次ニ左ノ通追加シ該地郵便局設置ノ日ヨリ施行ス

明治三十八年六月二十日
逓信大臣大浦兼武

地 域	一通話時ノ電話料	一回ノ電話呼出料
京城 州	二六〇	四八〇
安州	二八〇	一四四

○逓信省令第四十六號
明治三十年月逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中「日光中宮祠間」ノ一項ヲ左ノ通改正

明治三十八年六月 省令 逓信省第四十四號 第四十五號 第四十六號

四七七

明治三十八年六月二十六日ヨリ施行ス

明治三十八年六月二十三日

日光中宮廟間

金十錢

金五錢

逓信大臣大浦兼武

○逓信省令第四十七號

明治三十八年七月一日ヨリ日韓通信業務合同紀念三錢郵便切手一種ヲ發行シ日韓清(本邦郵便局所
在地ニ限ル)三國相互間並右三國內ニ發着スル郵便物ニ限り使用セシム其ノ賣捌ヲ取扱フ郵便局所ハ左ノ如シ

明治三十八年六月二十六日

逓信大臣大浦兼武

- 一本邦内地ノ各一、二等郵便局
- 一韓國郵便局及同出張所
- 一在清國本邦郵便局

○逓信省令第四十八號

明治三十七年五月逓信省令第三十六號中在韓國ノ三字ヲ削除ス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年三月逓信省令第十八號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治三十八年八月二十八日

逓信大臣大浦兼武

〔參照〕

明治三十七年五月逓信省令第三十六號ハ帝國軍用通信所ヨリ發シ在韓國帝國郵便局ヲ經由スル電報料金中受信人ヨリ徴收ノ件同年三月十逓信省令第十八號ハ在韓國帝國軍用通信所發ノ電報料金中受信人ヨリ追徴ノ件ナリ

○大藏省令第三十八號

北海道罹災救助基金法第四條及罹災救助基金法第十六條第二項ニ依リ道府縣罹災救助基金管理方法左ノ通指定ス

明治三十八年七月五日

内務大臣子爵芳川顯正
大藏大臣男爵曾禰荒助

第一條 罹災救助基金公債證書ハ日本銀行若ハ其ノ支店出張所又ハ日本興業銀行へ保護預ケト爲スヘシ但シ當分ノ間内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケ道府縣廳ニ於テ保管スルコトヲ妨ケス

内務大臣及大藏大臣ハ前項但書ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第二條 前條第一項但書ノ場合ニ於テハ地方長官ハ検査ノ官吏ヲ任命シ四箇月毎ニ精細ニ帳簿及現品ヲ検査セシメ其ノ調査ニ基キ別記書式ニ依リ調製シタル出納計算書ヲ添附シ直ニ内務大臣及大藏大臣へ報告スヘシ

第三條 罹災救助基金公債證書ノ保護預ケヲ爲シタルトキハ其ノ預ケ先銀行預ケ高及預ケ入年月日等ヲ直ニ内務大臣及大藏大臣へ報告スヘシ其ノ變更ニ付テモ亦同シ

(別記)

自明治何年何月何日 罹災救助基金公債證書出納計算書

至明治何年何月何日

種 類	受 入		支 出		残 存		摘 要
	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額	
前期ヨリ越シテ							
何公債證書							上記ノ公債證書

歸郷療養者復職復隊又ハ再ヒ陸軍病院ニ入院シタルトキハ前二項ノ規定ニ依ラス當該部隊若ハ病院ニ於テ其ノ月分ノ手當金ヲ給ス

第十一條中「通報スヘシ」ノ下ニ「休暇ノ延期ヲ許可シタル場合亦同シ」ヲ加フ

〔參照〕

陸軍省令第二號陸軍軍人軍醫歸郷療養者給與規則細則(明治三十八年一月十一日)抄錄
第十一條 歸郷療養者中休暇日終了前復職復隊死亡又ハ再ヒ陸軍病院ニ入院シタル者アルトキハ其ノ所屬部隊又ハ當該病院ヨリ直ニ之ヲ手當金支給總ニ通報スヘシ

○海軍省令第七號

當省所管ニ係ル鑛區登錄ニ就テハ新原御徳及漆生炭鑛ハ海軍採炭所長長門炭鑛ハ臨時海軍煉炭製造所長ヲ指定ス

明治三十八年七月一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○司法省令第二十號

明治三十二年司法省令第十四號中「建物登記簿」ノ下ニ「工場財團登記簿、鑛業財團登記簿」ヲ加フ

明治三十八年七月十一日

司法大臣波多野敬直

〔參照〕

明治三十二年五月十日司法省令第十四號ハ土地登記簿建物登記簿及商業登記簿ノ原本又ハ抄本ノ請求ニ關スル手数料ノ件ナリ

○文部省令第十二號

私立醫學專門學校指定規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十八年七月一日

文部大臣久保田讓

私立醫學專門學校指定規則

第一條 私立醫學專門學校ニシテ醫師免許規則第三條ニ依リ文部大臣ノ指定ヲ受ケントスルトキ

ハ其ノ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ既ニ文部大臣ニ開申シタル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 現在生徒ノ學年及學級別人員

二 卒業生ノ員數及卒業後ノ情況

三 教員ノ氏名資格擔當學科目及專任兼任ノ區別

四 教授用並實驗及實習用ノ器具器械標本及模型目錄

五 實習用患者ノ入院外來別現在人員並最近一箇年間各月ニ於ケル入院外來新來再來別日々平均人員

六 實習用解剖屍體ノ最近一箇年間實數

第二條 指定ヲ爲スヘキ學校ハ左ノ各號ニ該當シ文部大臣ニ於テ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ其ノ成績佳良ト認ムルモノニ限ル

一 生徒ノ定員ニ對シ相當ナル校地校舍校具病院其ノ他ノ設備アルコト

二 必修學科目トシテ少クモ解剖學^{實習}、生理學、病理學、藥物學、內科學^{臨床講義}、外科學^{臨床講義}、眼科學^{臨床講義}、產科學^{臨床講義}、婦人科學^{臨床講義}、衛生學^{細菌學}、法醫學ヲ教授シ修業年限四箇年以上ナルコト

三 前號各學科目毎ニ少クトモ公立私立專門學校規程第七條第一項ノ資格ヲ有スル教員一人ヲ採用セルコト

四 專門學校トシテ認可ヲ受ケタル學則ヲ實施シタル後二箇年ヲ經過シタルコト

五 實習用患者ノ數ハ每學年ノ平均生徒數(別科生共)百人以内ノ學校ニ於テハ入院患者二十五人以上外來患者三十八以上トシ以上生徒十八ヲ増ス毎ニ入院患者外來患者各二人ヲ増スコト

六 實習用解剖屍體ノ數ハ每學年ノ平均生徒數(別科生共)百人以内ノ學校ニ於テハ毎年二十體以上トシ以上生徒十八ヲ増ス毎ニ一體ヲ増スコト

第三條 指定學校ニ於テ別科生等ヲ入學セシムルトキハ其ノ學籍簿ヲ別冊トナスヘシ
指定ノ效力ハ前項ノ生徒ニ及ハス

第四條 指定學校ニ於テハ學則所定ノ授業時數中授業ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及フ生徒ハ進級若ハ卒業セシムルコトヲ得ス

第五條 指定學校ニ於テ學年試驗若ハ卒業試驗ヲ施行セントスルトキハ三十日前ニ文部大臣ニ開申スヘシ

第六條 文部大臣ハ醫術開業試驗委員若ハ其ノ他ノ吏員ヲシテ試驗ニ立會ハシムルコトアルヘシ
前項委員若ハ其ノ他ノ吏員ニ於テ試驗問題若ハ試験ノ方法不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更シ若ハ變更セシムルコトアルヘシ

第七條 指定學校ハ毎年六月三十日ノ調査ニ依リ翌月中ニ第一條第一號第三號第五號第六號並立ニ掲タル事項ヲ具シ文部大臣ニ申報スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ文部大臣ニ申報スヘキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 當該年度經費豫算ノ細目

二 前年中卒業者員數並卒業後ノ情況

第八條 指定學校ニシテ本令ニ違背シ若ハ第二條ノ要件ノ一ヲ失ヒ其ノ他成績不良ナリト認メタ

ルトキハ文部大臣ハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 此ノ規則ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス
地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受理シタルトキハ其ノ書類及實況ヲ精査シ意見ヲ付シテ進達スヘシ

○逓信省令第四十九號

明治二十三年七月逓信省令第十五號中「郵便爲替及ノ五字ヲ削除シ明治三十八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス」

明治三十八年七月十三日

逓信大臣大浦兼武

〔參照〕

明治二十三年七月逓信省令第十五號ハ大阪及下關ニ郵便爲替貯金管理支所ヲ置キ各受持區域内ノ郵便局所ニ關スル郵便爲替及郵便貯金ノ出納計算並ニ其區域内ノ郵便局所ニ於テ郵便貯金通帳ヲ交付シタル預ケ入ノ郵便貯金ニ關スル事務ヲ掌ラシムル件ナリ

○逓信省令第五十號

明治三十三年五月逓信省令第二十二號第六條中「北海道」ノ三字ヲ刪除ス

明治三十八年七月二十九日

逓信大臣大浦兼武

〔參照〕

逓信省令第二十二號鐵道船舶總舍新營修繕工事ノ請負競争加入者資格ノ件(明治三十三年五月十八日)抄録

第六條 北海道神戶諸島小笠原島及海外ニ於テ競争入札ヲ執行スル場合ニハ當分ノ内本令ヲ適用セス

○逓信省令第五十一號

明治三十三年九月逓信省令第四十三號中第一號及第二號左ノ通改正シ本年八月十六日ヨリ施行ス

明治三十八年七月三十一日

逓信大臣大浦兼武

- 一 日韓間發著通常郵便物ノ電信ニ依ル取戻請求ニ關スル料金ハ金一圓二十錢トシ同名宛變更請求ニ關スル料金ハ金二圓十錢トス清國內地間並ニ清國ト日本 韓國トノ間ニ發著スル通常郵便物ノ取戻若ハ名宛變更 代金引換ノ取消若ハ金額變更又ハ現金取立ノ取消ニ關スル請求ハ電信ニ依ルコトヲ得ス
- 二 價格表記通常郵便物トシテ取扱フヘキ有價ノ物件ハ韓國内發著ノモノヲ除クノ外通貨又ハ有價證券ニ限ル

〔参照〕

- 一 逓信省令第四十三號(明治三十三年九月一日)抄録
通常郵便物ノ名宛變更若クハ取戻 代金引換ノ取消又ハ現金取立ノ取消ニ關スル請求ハ電信ニ依ルコトヲ得ス
- 二 價格表記通常郵便物トシテ取扱フヘキ有價ノ物件ハ紙幣又ハ有價ノ證券ニ限ル

○逓信省令第五十二號

明治三十三年九月逓信省令第五十六號清韓小包郵便規則第十五條左ノ通改正シ本年八月十六日ヨリ施行ス

明治三十八年七月三十一日

逓信大臣大浦兼武

第十五條 日韓間發著小包郵便物ノ電信ニ依ル取戻請求ニ關スル料金ハ金一圓二十錢トシ同名宛變更請求ニ關スル料金ハ金二圓十錢トス清國內地間並ニ清國ト日本 韓國トノ間ニ發著スル小包郵便物ノ取戻若ハ名宛變更又ハ代金引換ノ取消若ハ金額變更ニ關スル請求ハ電信ニ依ルコトヲ得ス

〔参照〕

- 一 逓信省令第五十六號清韓小包郵便規則(明治三十三年九月十一日)抄録
- 第十五條 本規則ヲ適用スヘキ小包郵便物ニ關スル代金引換ノ取消、名宛變更又ハ取戻ノ請求ハ電信ニ依ルコトヲ得ス

○外務省令第五號

明治三十三年^{四月}外務省令第二號外國旅券規則中左ノ通り改ム

第九條 六箇月ヲ二箇月ニ改ム

第十條 削除

本令ハ明治三十八年九月十日ヨリ施行ス

明治三十八年八月二十四日

外務大臣 伯爵 桂 太郎

〔參照〕

外務省令第二號外國旅券規則(明治三十三年六月四日抄録)

第九條 旅行者歸國若ハ歸著シタルトキ又ハ本令第二條ニ依リ旅券ノ下付ヲ出願シタル者其ノ領收ノ後六箇月以内ニ出發

セサルトキハ旅券ヲ返納スヘシ

旅券ノ下付ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ遺族ヨリ之ヲ返納スヘシ

第十條 商業漁業其ノ他職業ノ爲數次往復スル者ハ歸國若ハ歸著毎ニ其ノ旅券ヲ返納スルコトヲ要セス但シ旅券領收ノ日

ヨリ三年ヲ過キテ歸國若ハ歸著シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

○大藏省令第四十號

明治三十五年大藏省令第十號中鹽務局長ノ下ニ鹽務局出張所長ヲ加フ

明治三十八年八月十一日

大藏大臣 男爵 曾 淵 荒助

〔參照〕

明治三十五年^{五月}大藏省令第十號ハ不動産登記ノ囑託ニ付キ官吏指定ノ件ナリ

○大藏省令第四十一號

明治三十五年大藏省令第十七號中稅關及稅關支署構外檢査特許手数料左ノ通改正ス

明治三十八年八月 省令 外務省第五號 大藏省第四十號 第四十一號 稅關及稅關支署構外檢査特許手数料 四八七

明治三十八年八月二十四日

大藏大臣男爵曾禰荒助

税關及税關支署構外検査特許手数料

普通貨物検査ノ爲税關官吏ノ派出ヲ要スルトキ

一検査ニ要スル時間

一時間マテ毎ニ

參圓

但シ旅費ヲ要スルトキハ別ニ其ノ實費ヲ加フ

船内ニ於テ旅客携帶品検査ノ爲税關官吏ノ乗船ヲ要スルトキ

一乗船官吏每一人

一箇月マテ毎ニ

四拾圓

○司法省令第二十一號

奈良地方裁判所管内高田區裁判所ノ管轄ニ屬スル刑事ノ事務ニシテ裁判所構成法第十六條ノ一第二及第三ノ事項ニ關スルモノハ同法第十六條ノ二ニ依リ奈良區裁判所ヲシテ之ヲ取扱ハシム

本令ハ明治三十八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年八月七日

司法大臣波多野敬直

○司法省令第二十二號

松山地方裁判所管内大洲區裁判所ニ於テ其管轄ニ屬スル刑事事務ノ全部ヲ取扱フ

本令ハ明治三十八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年八月七日

司法大臣波多野敬直

○司法省令第二十三號

根室地方裁判所管内釧路區裁判所ニ同地方裁判所支部ヲ置キ釧路、帶廣兩區裁判所管内ヲ管轄セ

シメ當分ノ内豫審事務ノミヲ取扱ハシム
本令ハ明治三十八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年八月十二日

司法大臣波多野敬直

○農商務省令第二十一號

明治三十八年農商務省令第十六號花菰検査規則施行細則中左ノ通改正ス

明治三十八年八月二十五日

農商務大臣男爵清浦奎吾

第二十二條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第二十三條 検査請求者ハ花菰ニ付特ニ急速ノ検査又ハ搬出ヲ請求スルコトヲ得休暇日ニ於テ検査又ハ搬出ヲ要スルトキハ其ノ前日迄ニ之ヲ請求ヲ爲スヘシ

前項急速検査又ハ休暇日ニ於ケル急速搬出ノ請求者ハ第二條ノ検査手数料ノ外左ノ手数料ヲ納ムヘシ但シ休暇日ニ涉リ急速検査ヲ受ケタル花菰ニシテ其ノ休暇日ニ於テ搬出スルモノハ別ニ搬出ノ爲手数料ヲ納ムルコトヲ要セス

普通花菰

一本ニ付金二錢

廣幅花菰

一枚ニ付金一錢

短尺花菰

一枚ニ付金一錢

第三條ノ規定ハ前項ノ手数料ニ之ヲ準用ス

第二十四條 検査ヲ受ケタル花菰ヲ輸出前ニ於テ切斷シタルトキハ其ノ検査ノ效力ヲ失フ

前項ノ花菰ニ付更ニ検査ヲ請求スルトキハ第三條ノ検査手数料ヲ納ムルコトヲ要セス

明治三十八年八月 省令 農商務省第二十一號

附 則

本令ハ明治三十八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第五十三號

明治三十年^{五月}逓信省令第三十二號加入登記料及電話使用料ノ部中「相模横須賀」ノ次ニ左ノ通追
加ス

明治三十八年八月五日

逓信大臣大浦兼武

地名

加入登記料

電話使用料(年額)

小 倉

金 五 圓

金 四 十 八 圓

○逓信省令第五十四號

明治三十三年^{五月}逓信省令第十九號第五條ヲ第五條ノ一トシ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第五條ノ二 民法第三十五條ニ據リ設立シタル社團法人ニ在リテハ其準スヘキ會社ト同一ノ資格

ヲ備フルコトヲ要ス

明治三十八年八月九日

逓信大臣大浦兼武

〔參照〕

明治三十三年^{八月}逓信省令第十九號ハ逓信省用品供給競争者資格ノ件ナリ

○外務省令第六號

明治二十九年外務省令第三號移民保護法施行細則中左ノ通改正ス

明治二十八年九月二十六日

外務大臣伯爵桂 太郎

第十六條 移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ハ國債證券又ハ地方債證券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ

得 前項國債證券及地方債證券ノ價格ハ其ノ納付ヲ受クヘキ官廳ツ定ムル所ニ依ル

〔參照〕

外務省令第三號移民保護法施行細則(明治二十九年五月二十七日抄録) 第十六條 移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ハ左ノ割合ヲ超過セサル限り國債證券又ハ地方債證券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

- 一 保證金額一萬二千圓マテハ其ノ三分ノ二
 - 二 保證金額一萬二千圓以上三萬圓マテハ一萬二千圓ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ四分ノ三
 - 三 保證金額三萬圓以上ハ三萬圓ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ五分ノ四
- 前項國債證券及地方債證券ノ價格ハ其ノ納付ヲ受クヘキ官廳ツ定ムル所ニ依ル

○大藏省令第四十二號

明治三十六年大藏省令第二十四號中神戸樟腦事務局ノ部ヘ左ノ出張所ヲ追加ス

明治三十八年九月六日

大藏大臣男爵曾根荒助

出張所名稱	位 置	出張所名稱	位 置
津	三重縣津市	岩 園	山口縣玖波郡橫山村
今 市	島根縣松江郡今市町	治	愛媛縣越智郡今治町
吳	廣島縣吳市		

○大藏省令第四十三號

明治三十六年大藏省令第二十三號粗製樟腦、樟腦油專賣法施行細則中左ノ通改正ス

明治三十八年九月 省令 外務省第六號 大藏省第四十二號 第四十三號

明治三十八年九月十四日
第二十三條中第十四條ヲ削ル

大藏大臣男爵曾禰荒助

〔參照〕

大藏省令第二十三號組織機關權限油專賣法施行細則(明治三十六年九月十五日)抄録
第二十三條 第十三條、第十四條、第十六條及第二十四條ヲ除クノ外本則中組織事務局ニ屬スル事務ハ權限事務局出張所
ル地方ニ於テハ權限事務局出張所之ヲ行フ

○大藏省令第四十四號

明治三十四年五月大藏省令第六號ニ記載セル移送有價證券保管金庫中ニ廣島本金庫ヲ加ヘ中央金庫
門司派出所トアルヲ門司本金庫ニ中央金庫福島派出所トアルヲ福島本金庫ニ改ム

明治三十八年九月二十日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第四十五號

明治三十八年大藏省令第四號煙草專賣規則中左ノ通り改メ明治三十八年十月十日ヨリ施行ス

明治三十八年九月二十七日

大藏大臣男爵曾禰荒助

第五條第一項ヲ左ノ通り改ム

煙草元賣捌人組合契約ヲ締結シテ煙草元賣捌業ヲ營メントスルトキハ第七號書式組合營業許可
申請書ニ組合契約書ヲ添ヘ煙草專賣局長ノ許可ヲ受クヘシニ組合契約ヲ締結シ業務ヲ營メル
者亦同シ

組合契約ヲ締結シタル煙草元賣捌人ハ其ノ組合員タル期間各自單獨ニ其ノ業務ヲ營ムコトヲ得
組合契約ヲ變更セムトスルトキハ變更契約書ヲ添ヘ煙草專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ

第十條第六項ヲ左ノ如ク改ム

第二項第三項ノ場合ニ於テ其ノ買受代金ハ現品領收濟ノ日ヨリ起算シ左ノ期間内ニ完納スヘシ

一 買受代金五百圓以上壹萬五千圓未満ノモノハ二箇月

二 買受代金壹萬五千圓以上ノモノハ三箇月

第十三條ヲ左ノ如ク改ム

煙草元賣捌人ノ營業所ハ一人一箇所トス但シ既ニ二箇所以上ノ營業所ヲ有スル煙草元賣捌人ハ
此限ニ在ラス

煙草專賣局長ハ組合及會社ニ限り必要ト認メタル場合ニ於テ二箇所以上ノ營業所ノ設置ヲ許可
スルコトアルヘシ

第六號書式ノ次ニ左ノ書式ヲ加フ

第七號書式

組合營業許可申請書

- 一 組合營業所位置
- 一 組合契約ヲ締結セントスル各煙草元賣捌人ノ指定ヲ受ケタル年月日及其ノ營業期間
- 一 業務執行者ヲ定メタルトキハ其ノ氏名
- 一 私共組合契約ヲ締結シ煙草元賣捌營業仕度條許可相成度別紙組合契約書相添申請候也

年月日

煙草元賣捌人從來ノ營業所

同

氏

名印

煙草專賣局長宛

同

〔參照〕

大藏省令第四號煙草賣捌規則(明治三十八年二月四日)抄録
 第五條 煙草元賣捌人組合契約ヲ締結シテ其ノ業務ヲ營メントスルトキハ其ノ旨標章專賣局長ニ申告スヘシ
 第十條 第三項第三項及第六項
 政府ヨリ買受クル製造煙草ノ代金一回五百圓以上ニ達スル者ハ代金納付ノ擔保トシテ國債證券 地方債證券若ハ政府ノ保
 證又ハ監視ヲ受クル株式會社ノ株券若ハ債券ヲ提供シテ代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得
 當時製造煙草ノ買受ヲ爲ス者代金納付ノ擔保トシテ前項ノ有價證券ヲ提供シ置クトキハ其ノ證券ノ價格ニ達スルマ
 テ代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得但シ毎回ノ買受代金五百圓ヲ下ラサルコトヲ要ス
 第二項第三項ノ場合ニ於テ其ノ買受代金ハ現品領收簿ノ日ヨリ二箇月以内ニ之ヲ完納スヘシ
 第十三條 煙草元賣捌人ノ營業所ハ一人一箇所ニ限ルモノトス但シ既ニ二箇所以上ノ營業所ヲ有スル煙草元賣捌人ハ此限
 ニ在ラス

○司法省令第二十四號

鹿兒島地方裁判所管内大島區裁判所立長出張所ヲ茶花出張所ト改稱ス

本令ハ明治三十八年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年九月九日

司法大臣波多野敬直

○司法省令第二十五號

熊本地方裁判所管内御船區裁判所山鹿區裁判所及高瀬區裁判所ニ於テハ其管轄ニ屬スル刑事ノ事
務ノ全部ヲ取扱フ

本令ハ明治三十八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年九月十九日

司法大臣波多野敬直

○文部省令第十三號

明治三十六年文部省令第十三號公立私立專門學校規程中左ノ通改正ス

明治三十八年九月一日

文部大臣久保田讓

第八條ヲ左ノ如ク改ム

第八條 專門學校ニ於テ本科生徒ヲ入學セシムルハ毎年一回トス其ノ期間ハ三十日以内トス但シ
 學科課程相同シキ專門學校間ニ於ケル生徒ノ轉學ニハ本文ヲ適用セス
 專門學校ノ本科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ本科第一學年ニ入學スルコトヲ得ル資格ヲ
 有シ且前各學年ノ學科課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ學年級ヲ設ケサル專
 門學校ニ就キテモ亦之ニ準ス
 前項入學者ノ學力ハ總テ試験ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

〔參照〕

文部省令第十三號公立私立專門學校規程(明治三十六年三月三十一日)抄録
 第八條 專門學校ノ本科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ本科第一學年ニ入學スルコトヲ得ル資格ヲ有シ且前各學年ノ
 課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
 前項入學者ノ學力ハ總テ試験ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

○文部省令第十四號

明治三十六年文部省令第二十七號大阪高等工業學校規程中左ノ通改正ス

明治三十八年九月十三日

文部大臣久保田讓

第一條ヲ左ノ如ク改ム

大阪高等工業學校ノ學科ヲ分チテ機械科 應用化學科 染色科 窯業科 釀造科 冶金科 造船科 及 船
 用機關科トス
 各學科ノ學科目及其ノ程度左ノ如シ

機械科

學科 目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間
工務建築法									
工業經濟									
英語		三			三			三	
實修	三			三			三		
製圖		一六			一五			一四	
發動機		二			五			四	
製造用諸機					二			四	
鐵冶金學					三			二	
機械學					二			二	
電氣工學								二	
機械製作法		三							
力學及材料 強弱論					四			四	
無機化學					三			三	
物理學					三			三	
數學		三			三			三	
學年	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間

應用化學科

學科 目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間
實修									
化學分析	二			一〇			一〇		
製藥	四			五			五		
應用化學				六			六		
應用電氣化 學		三			六			三	
礦物學		二						三	
製造用諸機								二	
電氣工學								二	
機械工學大 意					三			三	
化學									
物理學		五							
數學		五							
學年	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間

總計	三	五	三	三	三	三	三	三	三
長式體操		二	二	二	二	二	二	二	二
總計	三	五	三	三	三	三	三	三	三

醸造科

學 科 目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間
電氣工學	三								
礦物學									
製菓製造法									
國案	四			四			四		
化學分析	四			四			四		
實修	八			二			一八		
英語	三			三			三		
工業經濟									
工場建築法									
簿記									
兵式體操	二			二			二		
計	三九			三九			三九		

學 科 目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間	第一學期 每週時間	第二學期 每週時間	第三學期 每週時間
化學									
機械工學大									
電氣工學									
應用化學									
特別有機化									
細菌學									
顯微鏡使用									
製菓	四			四			四		
化學分析	一五			一七			一六		
實修									
英語	三			三			三		
工業經濟									
工場建築法									
簿記									
兵式體操	二			二			二		
計	三九			三九			三九		

冶金科

學科 目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
實修									
化學分析	三	四	四	一	五	五			
製圖									
探礦學									
探礦學									
試金術									
吹管分析									
鐵冶金學									
冶金學									
礦物學									
電氣工學									
機械工學大									
化學									
物理學									
數學									
計	三	四	四	一	五	五	一	二	二

學科 目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
英語									
工業經濟									
工場建築法									
簿記									
兵式體操									
計	三	二	二	三	二	二	三	二	二

造船科

學科 目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
數學									
物理學									
無機化學									
力學及材料									
強弱論									
機械製作法									
電氣工學									
船用機關									
造船學									
機械製圖									
計	三	三	三	三	三	三	四	四	四

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
造船製圖		三六	一五		一五	一三		一六	二二
實修		三六			三三			三三	
英語			三三		三三			三三	
工業經濟								一一	一一
工場建築法								一一	一一
船舶								一一	一一
兵式體操	四二	二		三九	二		三九	二	
計	四二	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

船用機關科

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
數學	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
物理學		三三	三三		三三	三三		三三	三三
無機化學		三三	三三		三三	三三		三三	三三
有機化學		三三	三三		三三	三三		三三	三三
力學及材料		三三	三三		三三	三三		三三	三三
強弱論		三三	三三		三三	三三		三三	三三
機械製作法	三三			三三			三三		
電氣工學									
機械學									

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
鍛冶金學									
製造用附機									
造船學									
船舶機關		三三			三三			三三	
水力學									
製圖		一五			一五			一五	
實修		三六			三六			三六	
英語			三三		三三			三三	
工業經濟									
工場建築法									
簿記									
兵式體操	四二	二		三九	二		三九	二	
計	四二	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

附則

備考 各學科ニ於ケル實修ノ每週教授時數ハ學校長ニ於テ臨時之ヲ増減スルコトヲ得

本令ハ明治三十八年九月十三日ヨリ施行ス

本令施行ノ際現ニ第二學年以上ニ在學スル生徒ニ對シテハ其ノ卒業ニ至ルマテ仍從前ノ規定ニ依ル

○文部省令第十五號

東京高等工業學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並研究生、現業練習生、選科生及聽講生ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十八年九月二十七日

文部大臣久保田讓

東京高等工業學校規程

第一條 東京高等工業學校ノ修業年限ハ三箇年トス但シ學校長ハ工業圖案科生徒ニ限リ一箇年以內其ノ修業年限ヲ延長スルコトヲ得

第二條 東京高等工業學校ノ學科ハ分テ染織科、窯業科、應用化學科、機械科、電氣科、工業圖案科及建築科トシ染織科ニ色染分科及機織分科ヲ置キ電氣科ニ電氣機械分科及電氣化學分科ヲ置ク

第三條 各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

學科	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理學	一	一	一	一	一	一	一	一	一
數學	三	三	三	三	三	三	三	三	三
物理學	四	四	四	四	四	四	四	四	四
化學	四	四	四	四	四	四	四	四	四
機械學				三	三	三	三	三	三
色染				三	三	三	三	三	三

染織科色染分科

學科	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
機織	一	一	一	一	一	一	一	一	一
機物原料	一	一	一	一	一	一	一	一	一
機物仕上	一	一	一	一	一	一	一	一	一
圖畫又圖案	二	二	二	二	二	二	二	二	二
製圖	三	三	三	三	三	三	三	三	三
機物分解及意匠	三	三	三	三	三	三	三	三	三
工場實修	六	三	三	三	三	三	三	三	三
物理學實驗				三	三	三	三	三	三
化學分析	三	六	八	一〇	三	三	三	三	三
工業經濟									
工業衛生									
工業簿記									
英語	四	四	四	三	三	三	一	一	一
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五

備考 第一學年及第二學年ニ於ケル倫理ヲ課セサル週間ハ工場實修ニ於テ一時ヲ增加ス以下各學科之ニ似テ

染織科機織分科

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
數學	四	四	四	四	四	四	四	四	四
物理學	四	四	四	四	四	四	四	四	四
化學	四	四	四	四	四	四	四	四	四
機織學	四	四	四	四	四	四	四	四	四
色染	一	一	一	一	一	一	一	一	一
織物原料	一	一	一	一	一	一	一	一	一
織物仕上	一	一	一	一	一	一	一	一	一
紡織機	二	二	二	二	二	二	二	二	二
紡織機務	二	二	二	二	二	二	二	二	二
圖畫及圖案	二	二	二	二	二	二	二	二	二
製圖	二	二	二	二	二	二	二	二	二
織物分析及意匠	三	三	三	三	三	三	三	三	三
工場實修	五	五	五	五	五	五	五	五	五
合計	五〇七	五〇七	五〇七	五〇七	五〇七	五〇七	五〇七	五〇七	五〇七

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
物理學實驗									
工業經濟									
工業衛生									
工業簿記									
英語	四	四	四	四	四	四	四	四	四
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
合計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
數學	三	三	三	三	三	三	三	三	三
物理學	四	四	四	四	四	四	四	四	四
化學	四	四	四	四	四	四	四	四	四
地質學									
應用化學									
機械學									
工業									
合計	五	五	五	五	五	五	五	五	五

明治三十八年九月 省令 文部省第十五號 東京高等工業學校規程

應用化學科

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
圖畫及圖案	二	二	二	二	二	二	二	二	二
製圖	五	五	五	五	五	五	五	五	五
工場實修	二	二	二	一六	一五	一七	二六	一九	八
物理學實驗				三	三	三			
化學分析	三	一四	一四	三	三	三			
工業經濟									
工業衛生									
工業簿記									
英語	四	四	四	三	三	三	一	一	一
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

明治三十八年九月 省令 文部省第十五號 東京高等工業學校規程

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
礦物學	二								
機械學									
製造用機械									
冶金學									
應用化學									
電氣化學									
製圖	五	五	五	五	五	五	五	五	五
工場實修	二								
物理學實驗									
化學分析	三	一六	一六	三	一四	一四	三	一四	二
工業經濟									
工業衛生									
工業簿記									
英語	四	四	四	三	三	三	一	一	一
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

機械科

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
算學	二	二	二	二	二	二	二	二	二
物理學	三	三	三	三	三	三	三	三	三
工作法	四	四	四	四	四	四	四	四	四
應用力學	五	五	五	五	五	五	五	五	五
發動機	六	六	六	六	六	六	六	六	六
特別講義	七	七	七	七	七	七	七	七	七
電氣工學	八	八	八	八	八	八	八	八	八
用器畫	九	九	九	九	九	九	九	九	九
機械製圖	十	十	十	十	十	十	十	十	十
工場實修	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一
物理學實驗	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二
工業經濟	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三
工業衛生	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四
工業概論	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五

電氣科電氣機械分科

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
工場建築	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	二	二	二	二	二	二	二	二	二
兵式體操	三	三	三	三	三	三	三	三	三
計	四	四	四	四	四	四	四	四	四
倫理	五	五	五	五	五	五	五	五	五
數學	六	六	六	六	六	六	六	六	六
物理學	七	七	七	七	七	七	七	七	七
電氣磁氣	八	八	八	八	八	八	八	八	八
工作法	九	九	九	九	九	九	九	九	九
應用力學	十	十	十	十	十	十	十	十	十
電氣工學	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一
發動機	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二
用器畫	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三
機械製圖	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四
工場實修	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五

電氣科電氣化學分科

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
物理學實驗									
工業經濟									
工業衛生									
工業簿記									
工場建築									
英語									
兵式體操									
計	三九	二	四	三九	二	三	三九	二	三

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
倫理									
數學									
物理學									
化學									
礦物學									
電氣磁氣									
應用化學									

工業圖案科

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
電氣工學									
機械學									
冶金學									
電氣化學									
製圖									
工場實修									
物理學實驗									
化學分析									
工業經濟									
工業衛生									
工業簿記									
英語									
兵式體操									
計	三九	二	四	三九	二	三	三九	二	三

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
化學									
圖案法									
有職故實									
建築裝飾									
工藝史									
博物									
製版化學									
自在畫									
用器畫									
圖案實修									
圖案應用									
工業經濟									
工業衛生									
工業概論									
英語									
兵式體操									
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

備考

一製版及漆工ヲ特修セントスル者ニハ化學ヲ必須科目トス
 一博物ハ第一年及第二年生ヲ合シテ隔年ニ之ヲ課ス之ヲ課セサル學年ニ於テハ其時間ヲ自在畫ニ充ツ
 一化學工業衛生工業概論ヲ隨意科目トス此等學科目ヲ修得セサル者ハ自在畫ニ從ハシム
 一製版ヲ特修スル者ニハ自在畫ノ時間ヲ制版化學ヲ課ス
 一圖案實修及圖案應用ニ於テハ生徒各自ノ希望ト所長トヲ斟酌シ左記工業ノ圖案ヲ特修セシム
 一木工 一金工 一染織 一漆工 一窯業 一製版

建築科

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
倫理									
數學									
物理學									
應用力學									
建築用材料									
建築沿革									
家風構造									
衛生工學									
製圖及意匠									
圖畫									
計	九	九	五	九	九	五	九	九	五

〔參照〕

明治三十六年七月十日 大藏省令第十五號ハ其寄地地租延納出願方ナリ

○大藏省令第四十八號

家藏寶典祿處分法施行法ニ依リ發行スル公債證書ノ券面金額種類ハ千圓、五百圓、百圓及五拾圓ノ四種トス

前項ノ公債ニ關シテハ整理公債取扱順序ノ規定ヲ準用ス

明治三十八年十月三十一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○陸軍省令第十四號

明治三十八年陸軍省令第八號ハ之ヲ廢止ス

明治三十八年十月十八日

陸軍大臣寺內正毅

〔參照〕

明治三十八年四月十一日 陸軍省令第八號ハ國民兵役ニ在ル者ノ服役及召集ニ關スル件ナリ

○陸軍省令第十五號

明治三十七年陸軍省令第五號同第二十五號及明治三十八年陸軍省令第九號ニ依ル陸軍軍人ノ服役延期ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ解止ス

明治三十八年十月十八日

陸軍大臣寺內正毅

一 將校同相當官准士官ニシテ現役年限年齡ニ達シ現役ヲ繼續シタル者ハ轉役ヲ命シタル日、現役ヲ延期シタル下士以下ハ歸郷ヲ命シタル日

三 召集中ノ歸休兵及豫備役、後備役、補充兵役、國民兵役ニ在リテ召集中ノ者ハ召集ヲ解除シタル日

四 現役豫備役、後備役、補充兵役、國民兵役ニ在リテ在郷スル者ハ平和克復ノ日

五 歸郷療養中ノ者ハ歸郷療養ヲ終リタル日但シ服役處分ヲ要スル者ハ其ノ決定ノ日

六 入院中ノ者ハ退院ノ日

七 俘虜其ノ他外國ニ抑留中ノ者ハ俘虜歸還者取扱規則ニ依リ審問ノ上歸郷ヲ命シ又ハ懲罰ニ附シ若ハ告發ヲ爲シタル日

八 逃亡中ノ者ハ所屬部隊復員又ハ解散ノ日

九 生死不明ノ者ハ生死不明ト爲リタル日ヨリ二箇年ヲ經過シタルトキ

○海軍省令第八號

海軍軍人ノ服役延期ハ明治三十八年十月十八日限り之ヲ停止ス但シ現ニ艦船等ニ乗組中ノ者又ハ國隊等ニ勤務中ノ者ニシテ准士官以上ニ在テハ解職ノ時、下士卒ニ在テハ補充交代ノ後在籍鎮守府海兵團ニ入團セシメタル上之ヲ停止ス

明治三十八年十月十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○司法省令第二十六號

長崎地方裁判所管内大村區裁判所下波佐見出張所ヲ肥前國東彼杵郡川棚村大字宿郷ニ移シ川棚出張所ト改稱ス

本令ハ明治三十八年十一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

司法大臣波多野敬直

○司法省令第二十七號

戰時ニ際シ陸海軍ニ召集セラレ休職ヲ命セラレタル看守カ復職スル場合ニ於テ定員ニ超過スルトキ其ノ超過人員ハ本令施行後六箇月ヲ限り之ヲ定員外ト爲シ其俸給ハ豫算定額内ヨリ支給スルコトヲ得

明治三十八年十月三十日

司法大臣波多野敬直

○文部省令第十六號

明治三十五年文部省令第九號實業教員養成規程中左ノ通改正ス

明治三十八年十月三日

文部大臣久保田讓

第二條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第二條ノ二 學資ノ補給ヲ受ケタル者ニシテ前條ノ義務期間内ニ於テ私費ヲ以テ學校ニ入學シ若ハ外國ニ留學セントスル者アルトキハ文部大臣ハ時宜ニ因リ之ヲ許可スルコトアルヘシ
前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ノ當該學校ニ在學中若ハ外國留學中ノ期間ハ前條ノ義務期間ニ算入セス

第二條ノ三 第二條ノ義務期間内ニ於テ文部大臣ノ指定ヲ受ケサルカ爲任意就職シタル者ハ其ノ旨直ニ文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ就職ヲ罷メ又ハ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
前條ノ許可ヲ受ケタル者學校ヲ卒業又ハ退學シ若ハ歸朝シタルトキハ直ニ文部大臣ニ届出ツヘ

第二條中若ハ前條ノ義務ヲ盡ササルトキヲ若ハ第二條ノ義務ヲ盡ササルトキ又ハ第二條ノ二第一項ノ許可ヲ受ケスシテ入學者ハ留學シタルトキニ改ム

第三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三條ノ二 第二條ノ規定ニ依リ實業學校及其ノ他ノ教職ニ從事スル者ニ其ノ義務期間内ニ於テ聘任、退職若ハ休職ヲ命ゼンドストキハ事由ヲ具シ豫メ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

〔參照〕

文部省令第九號實業教員養成規程(明治三十五年四月一日)抄録
第三條 學資ノ補給ヲ受ケタル者中途ニシテ退學シ若ハ前條ノ義務ヲ盡サハルトキハ補給シタル學資ヲ償還スヘキモノトス但シ文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

○文部省令第十七號

明治三十二年文部省令第十二號實業學校設置廢止規則中第三條及第五條ハ之ヲ削除ス

明治三十八年十月三日

文部大臣久保田讓

〔參照〕

文部省令第十二號實業學校設置廢止規則(明治三十二年三月三日)抄録
第三條 地方長官ニ於テ實業補習學校ヲ道府縣立學校ニ附設シタルトキ又ハ其ノ設置ヲ認可シタルトキハ名稱、位置、教科目必キ取附テ明記スルヘシ各教科目ノ毎週教授時數、教授季節、修業期間、生徒ノ入學資格ヲ具シテ文部大臣ニ開申スヘシ其ノ變更ノ場合又同シ但シ國庫ノ補助ヲ受ケル學校ニ關シテハ此限ニアラス
第五條 地方長官ニ於テ實業補習學校ヲ廢止シタルトキ又ハ其廢止ヲ認可シタルトキハ其旨文部大臣ニ開申スヘシ

○文部省令第十八號

文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試験ヲ受ケタルトキハ其ノ入學試験ハ無効トス

明治三十八年十月二十八日

文部大臣久保田讓

○農商務省令第二十二號

明治三十二年農商務省令第二十五號國有林野法施行規則中左ノ通改正ス
明治三十八年十月十一日

第七條ニ左ノ一號ヲ加フ

農商務大臣男曾清浦奎吾

八、鐵業法第五十六條ニ掲グル目的ノ爲貸付シ又ハ使用セシメタル國有林野ニ在リテハ探掘權者

○逓信省令第五十八號

本年^六月逓信省令第四十號韓國國內電報規則中第五條ヲ左ノ通改メ本日ヨリ施行ス
明治三十八年十月二日

第五條 電信局所ヨリ陸上一里以內ヲ電報直配達區域トス但シ必要ト認ムルトキハ其區域ヲ伸縮スルコトアルヘシ

逓信大臣大浦兼武

スルコトアルヘシ

〔參照〕

逓信省令第四十號韓國國內電報規則(明治三十八年六月十六日)抄錄
第五條 電信局所在地ニ配達スル電報ハ配達料ヲ要セス

○逓信省令第五十九號

明治三十年^{十二}月逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改正シ本月六日ヨリ施行ス
明治三十八年十月四日

「神戸半田間」ノ次ニ左ノ通加フ

金二十錢

「神戸廣島間」

金八十五錢

「京都靜岡間」ノ次ニ左ノ通加フ

神戸 吳間

金九十錢

金二十錢

「大津池上間」ノ次ニ左ノ通加フ

神戸 下關間

金一圓三十錢

金二十五錢

「神戸門司間」

神戸 門司間

金一圓三十錢

金二十五錢

「神戸浦和間」ノ次ニ左ノ通加フ

神戸 佐世保間

金一圓九十錢

金二十五錢

「神戸長崎間」

神戸 長崎間

金二圓

金二十五錢

○逓信省令第六十號
明治三十八年^三月逓信省令第十三號中「吳門司間」ノ次ニ左ノ通追加ス
明治三十八年十月四日

神戸 廣島間

神戸 下關間

逓信大臣大浦兼武

神戸 吳間

神戸 門司間

神戸 長崎間

○逓信省令第六十一號

自今逓信省ヨリ發行スル繪葉書ハ發行期日、種類、賣捌價格等ヲ郵便局所前ニ揭示シ其都度告示セ
ス但シ賣捌方ハ明治三十三年^九月逓信省令第七十五號郵便切手類賣捌規則ヲ準用ス

明治三十八年十月五日

逓信大臣大浦兼武

○逓信省令第六十二號

明治三十年^{十二}月逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改正シ本月十一日ヨリ施行
ス

明治三十八年十月十日

逓信大臣大浦兼武

「宇都宮足尾間」ノ次ニ左ノ追加ヲ

長崎大村間	金二十五錢	金十五錢
佐世保大村間	金二十五錢	金十五錢
武雄大村間	金二十五錢	金十五錢
佐賀大村間	金二十五錢	金十五錢
福岡川尻間	次ニ左ノ追加ヲ	
福岡大村間	金三十五錢	金二十錢
廣島門司間	次ニ左ノ追加ヲ	
小倉大村間	金五十五錢	金二十錢

○逓信省令第六十三號

明治三十七年九月逓信省令第五十七號第二項ノ次ニ左ノ二項ヲ追加シ第四回發行ノ分ヨリ之ヲ適用ス

明治三十八年十月十一日

逓信大臣大浦兼武

三等郵便局及郵便切手賣捌所ノ買受ケタル第一項ノ葉書ニシテ其發行ノ日ヨリ三箇月ヲ過クル毛賣捌ヲ了セザルモノアルトキハ定價ニ對シ百分ノ十ノ割引ヲ以テ同葉書中他ノ種類ノモノ又郵便切手類トノ交換ヲ所轄ノ二等郵便局ニ請求スルコトヲ得

(參照)

明治三十七年九月逓信省令第五十七號ハ明治三十七年職役紀念郵便切手發行ノ件ナリ

○逓信省令第六十四號

明治三十年十二月逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改正シ本月十二日ヨリ施行ス

明治三十八年十月十一日

逓信大臣大浦兼武

「小倉大村間」ノ次ニ左ノ追加ヲ

佐世保小倉間	金五十五錢	金二十錢
門司與間	次ニ左ノ追加ヲ	
廣島小倉間	金六十錢	金二十錢
東京門司間	次ニ左ノ追加ヲ	
東京小倉間	金三十圓	金二十五錢

○逓信省令第六十五號

明治三十八年三月逓信省令第十三號中「神戸佐世保間」ノ次ニ左ノ通追加ス

明治三十八年十月十一日

逓信大臣大浦兼武

東京小倉間

廣島小倉間

佐世保小倉間

○逓信省令第六十六號

本年六月逓信省令第四十號韓國國內電報規則中左ノ通改正ス

明治三十八年十月十四日

逓信大臣大浦兼武

第二條中同シク三字以内毎一語トスラ「謄文」三字以内毎一語トス但シ謄文電報ノ指定事項ニ用井タル略符號ハ各之ヲ謄文一字ニ計算ス其ノ略符號ニ數字ヲ附記シタルモノ亦同シニ改ム

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

和文電報及謄文電報ニシテ字數ニ算入スヘキ文字記載ナキモノト雖一語分ノ電報料ヲ課ス

第九條中「電信受信報知料」ノ下ニ「並別使料電報報知ニ要スル料金」ヲ加フ

第九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第十條ヲ第十一條トス

第十條 電報規則第百十四條ノ場合ニ於テ和文又ハ謄文一語歐文二語ノ通常料金ヲ控除シ尙前納

ノ返信料金ニ殘餘アルトキハ之ヲ還付ス

〔參照〕

逓信省令第四十號 韓國國內電報規則(明治三十八年六月十六日)抄錄
第二條 和文電報ハ片假名數字ヲ通シテ七字以内毎ニ語文電報ハ同シク三字以内毎ニ語トス
第九條 和文電報及譯文電報ノ電信受信報知料ハ一通毎ニ二語分ノ通常料金トス

○逓信省令第六十七號

明治三十四年四月逓信省令第十九號在外國郵便及電信局官吏手當給與細則第一號表在勤手當給與年額表中汕頭ノ行ノ次ニ左ノ一行ヲ追加シ該地郵便局設置ノ日ヨリ施行ス

明治三十八年十月十六日

逓信大臣大浦兼武

○逓信省令第六十八號

普通郵便事務ヲ取扱フ野戰郵便局所在地ニ郵便切手類賣捌所ヲ置クコトヲ得其ノ賣捌ニ關シテハ明治三十三年九月逓信省令第七十五號郵便切手類賣捌規則ヲ準用ス

本令ハ明治三十八年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年十月十六日

陸軍大臣寺內正毅
逓信大臣大浦兼武

○逓信省令第六十九號

明治三十七年二月逓信省令第五號ハ之ヲ廢止ス

明治三十八年十月十六日

逓信大臣大浦兼武

〔參照〕

明治三十七年五月逓信省令第五號ハ外國電報ニ對スル制限ノ件ナリ

○逓信省令第七十號

明治三十四年四月逓信省令第十九號在外國郵便及電信局官吏手當給與細則第一號表在勤手當給與年額表中安州ノ行ノ次ニ左ノ通追加シ該地郵便局設置ノ日ヨリ施行ス

明治三十八年十月十八日

逓信大臣大浦兼武

大 邱	一〇八〇	七八〇	四八〇	三三〇
永登浦	一〇八〇	七八〇	四八〇	三三〇
開 城	一〇八〇	七八〇	四八〇	三三〇
新 州	一〇八〇	七八〇	四八〇	三三〇

○逓信省令第七十一號

明治三十七年四月逓信省令第三十四號在外國通信官署官吏增加在勤手當給與年額表中牛莊ノ行ノ次ニ左ノ通追加シ該地郵便局設置ノ日ヨリ施行ス

明治三十八年十月十八日

逓信大臣大浦兼武

大 邱	一四四	七二	四八
永登浦	一四〇	七〇	四六
開 城	一四〇	七〇	四六
新 州	一四〇	七〇	四六

○逓信省令第七十二號

海外出稼人ノ委託ニ依リ株式會社橫濱正金銀行ヨリ差出ス通常郵便爲替ニ對シテハ證書一枚ノ最高金額ニ制限ヲ付セス且料金ハ一般規定ノ割合ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收ス
前項通常爲替ノ振出ニ關スル手續ハ一般ノ規定ニ依ラス別ニ之ヲ指定ス

第一號書式

請、求、書

一 公債證書何圖
一金 何 圓
右家藏寶典條處分法ニ依リ御給與可相成分御渡有之度別紙印鑑相添此段請求候也

年 月 日

住 所
氏 名 印

大藏大臣宛

附 一 公債證書ハ何地取扱店ニ於テ御渡有之度候
記 一 現金ハ何地金庫ニ於テ御渡有之度候

備考

一 公債證書ト現金トハ各別ニ請求スヘシ
二 公債證書給付取扱店又ハ現金仕換金庫ヲ指定セントスル者ハ式ノ如ク其旨ヲ付記スヘシ
一 住所ハ府縣市町村番地ヲ詳記シ且ツ住所氏名ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルコトヲ要ス

第二號書式

符 原

第「何」號 日本銀行本店(又ハ「何」地「何」支店) 氏 名

一 大日本帝國政府五分利公債證書額面 「何」圓也

但明治三十九年三月渡以降利札附屬
明治「何」年「何」月「何」日

封印

式入紙證收領 書 知 通 付 給

第「何」號 日本銀行本店(又ハ「何」地「何」支店) 氏 名

一 大日本帝國政府五分利公債證書額面 「何」圓也

但明治三十九年三月渡以降利札附屬

右條高整理ノ爲メ發行ス依テ前記指定ノ取扱店ニテ之ヲ受取ルヘシ
明治「何」年「何」月「何」日

大藏大臣 男 曾 曾 彌 荒 助 印

前記ノ公債證書正ニ領收候也

受取人
「住 所」
氏 名 印

明治「何」年「何」月「何」日

封印

第「何」號 請 求 者 氏 名

一 大日本帝國政府五分利公債證書額面 「何」圓也

但明治三十九年三月渡以降利札附屬

右前記ノ者ハ給付可有之候也
明治「何」年「何」月「何」日

大藏大臣 男 曾 曾 彌 荒 助 印
日本銀行(何地支店)(何地代理店)宛

○陸軍省令第十六號

本年ニ限リ 徵兵事務條例施行細則第二十五條ノ 近衛 海軍入營兵集合地中神戸ヲ京都トス
明治三十八年十一月十六日
陸軍大臣寺内正毅

○陸軍省令第十七號

明治三十二年陸軍省令第十六號陸軍旅費規則中左ノ 通改正ス
明治三十八年十一月二十一日
陸軍大臣寺内正毅
第二十七條第五項中「豫備役後備役下士以上ノ者復員ノ際常設官衙ヲ豫備役後備役ノ者召集解除ノ際常設部隊ニ改メ」

〔參照〕

陸軍省令第十六號陸軍旅費規則(明治三十二年六月七日)抄録
第二十七條第五項
第一項ノ 休職停職者ニシテ平時ニ復スルモ尙引續キ就職スルトキハ召集又ハ就職ノ際居住セシ地ヨリ新ニ就職セル地迄
第十九條ノ 規定ニ依リ第二表ノ 移轉料ヲ其ノ際ニ給ス豫備役後備役下士以上ノ者復員ノ際常設官衙ニ就職スルトキ亦同

○司法省令第二十八號

根室地方裁判所管内帶廣區裁判所大津出張所管轄十勝國中川郡洞寒村、十弗村、櫻舞村、誓牛村、信取村、蓋派村、居邊村、押帶村、勇足村、幌蓋村、負熊村、蝶多村、本別村、蝶多村ヲ帶廣區裁判所ノ管轄ニ改メ
明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ 通改正ス
本令ハ明治三十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十八年十一月七日
司法大臣波多野敬直

地方裁判所	區裁判所	出張所	國	管	市	區	町	村
根室	帶廣	大津	十勝	河西部	河東部	上川部		
		十勝	十勝	中川郡ノ内	中川郡ノ内			
				止者村	吡別村	白人村	幕別村	洞寒村
				十弗村	櫻舞村	誓牛村	信取村	蓋派村
				押帶村	勇足村	幌蓋村	負熊村	蝶多村
				蝶多村				本別村
				中川郡ノ内				
				豐原村	旅來村	安骨村		

○司法省令第二十九號

明治二十三年司法省令第三號地方裁判所支部及管轄表中西條支部管轄區裁判所ノ欄「西條」ノ次ニ「今治」ヲ加フ
本令ハ明治三十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○司法省令第三十號

明治三十八年十一月十四日
盛岡地方裁判所管内花巻區裁判所ニ於テ其管轄ニ屬スル刑事事務ノ全部ヲ取扱フ
本令ハ明治三十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
司法大臣波多野敬直

○文部省令第十九號

清國人ヲ入學セシムル公私立學校ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ
明治三十八年十一月 省令 司法省第二十九號 第三十號 文部省第十九號

明治三十八年十一月二日

文部大臣久保田讓

清國人ヲ入學セシムル公私立學校ニ關スル規程

- 第一條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ清國人ノ入學ヲ許可セントスルトキハ其ノ入學願書ニ本邦所在ノ清國公館ノ紹介書ヲ添付セシムヘシ
- 第二條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ清國人生徒ニ對シ本人ノ志望ニ依リ其ノ學校所定ノ學科目中一科目若ハ數科目ヲ關カシムルコトヲ得
- 第三條 清國人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ其ノ教育ニ關係スル職員ノ名簿清國人生徒ノ學籍簿出席簿及往復書類ヲ備フヘシ
- 前項ノ學籍簿ニハ生徒ノ氏名原籍年齡居所入學前ノ經歷入學ヲ紹介シタル官廳ノ名稱官費私費ノ區別賞罰入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年卒業ノ年月日轉學退學ノ事由等ヲ記載スヘシ
- 第四條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ清國人生徒ノ轉學又ハ退學ヲ許可セントスルトキハ其ノ願書ニ本邦所在ノ清國公館ノ承認書ヲ添付セシムヘシ
- 第五條 清國人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ毎年一月及七月ノ二回ニ其ノ前六箇月間ニ入學ヲ許可シタル清國人生徒ノ員數ヲ文部大臣ニ報告スヘシ
- 前項ノ規定ハ清國人生徒ノ轉學者退學者及卒業者ニ關シテ之ヲ準用ス
- 第六條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ清國人生徒卒業シ又ハ之ニ退學ヲ命シタルトキハ一箇月以内ニ其ノ氏名及退學ヲ命シタル事由ヲ本人ノ入學ヲ紹介シタル清國公館ニ報告スヘシ
- 第七條 清國人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校中文部大臣ニ於テ適當ト認ムルモノハ特ニ之ヲ選定シ清國政府ニ通告ス
- 第八條 公立又ハ私立ノ學校ニシテ前條ノ選定ヲ受ケントスルトキハ管理者又ハ設立者ニ於テ左

ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ既ニ開申シ若ハ認可ヲ得タル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

- 一 清國人教育ニ關スル沿革
 - 二 學則中清國人教育ニ關スル規定
 - 三 學校長若ハ學校代表者ノ履歷
 - 四 教員ノ氏名資格學業經歷及分擔學科目
 - 五 清國人生徒定員及學年學級別現在員數
 - 六 清國人生徒校外監督ノ方法
 - 七 清國人卒業者ノ員數及卒業後ノ情況
 - 八 清國人生徒ニ充ツル校地校舍及寄宿舎ノ圖面
 - 九 經費及維持ノ方法
 - 十 教科書教授用器具器械及標本ノ目錄
- 前項第二號及第八號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第九條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ清國人生徒ヲシテ寄宿舎又ハ學校ノ監督ニ屬スル下宿等ニ宿泊セシメ校外ノ取締ヲナスヘシ
- 第十條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ハ他ノ學校ニ於テ性行不良ナルカ爲退學ヲ命シラレタル清國人ヲ入學セシムルコトヲ得ス
- 第十一條 文部大臣ハ必要ト認メタルトキハ吏員ヲシテ選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ノ試驗ニ立會ハシメ又ハ試験問題及其ノ答案ヲ査閲セシムルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ試験ノ問題又ハ方法中不適當ト認メタルモノアルトキハ當該吏員ハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十二條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ毎學年終了後一箇月以内ニ其ノ滿員八生徒ノ教育上ノ經過ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

第十三條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニシテ此規定ニ違背シ又ハ其ノ成績不真ナリト認メタルトキハ文部大臣ハ其ノ選定ヲ取消スコトアルヘシ

第十四條 本令ノ規定ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第十五條 本令ノ規定ハ小學校及小學校ニ類スル各種學校ニ關シ之ヲ適用セス

附則

本令ハ明治三十九年一月一日ヨリ施行ス

○文部省令第二十號

在外指定學校ニ關スル規程左ノ通相定ム

明治三十八年十一月八日

外務大臣 伯爵 桂 太郎
文部大臣 久保田 謙

在外指定學校ニ關スル規程

第一條 在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法第一條ニ關シ指定ヲ受ケントスルトキハ學校ノ設立者若ハ其ノ代表者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ外務文部兩大臣ニ申請スヘシ

一 學校ノ名稱
二 學校ノ沿革

三 學則

四 職員ノ氏名及其ノ履歷書

五 現在生徒學年別及學級別人員

六 校地校舍及附屬舍等ノ平面圖

七 學校經費ニ關スル收入支出豫算

前項第一號第三號ノ變更ハ外務文部兩大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 學則ニ規定スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一 修業年限學年學期休日ニ關スル事項

二 學科課程教授時數ニ關スル事項

三 生徒ノ入學退學課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

四 授業料入學料等ヲ徴收スルトキハ之ニ關スル事項

五 寄宿舎ヲ設クルトキハ之ニ關スル事項

第三條 第一條ノ申請ニ基キ外務文部兩大臣ニ於テ指定ヲ爲スヘキ學校ハ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具フルモノニ限ル

第四條 第一條ニ依リ指定セラレタル學校ヲ廢止セントスルトキハ其ノ事由並ニ生徒ノ處分方法ヲ具シ外務文部兩大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 小學校ノ教科ヲ授クル在外指定學校ノ訓導ニハ小學校ノ正教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有

スル者ヲ准訓導ニハ小學校ノ准教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者ヲ採用スヘシ
 學校長ヲ採用スルトキハ小學校ノ本科正教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者タルヘシ
 第六條 中學校高等女學校ノ教科ヲ授クル在外指定學校ノ教諭助教諭ニハ中學校ノ教員免許狀
 又ハ高等女學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ採用スヘシ但シ高等女學校ノ教科ヲ授クル學校ニ於
 テハ第二學年以下ノ教授ヲ擔任セシムル爲小學校本科正教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者ヲ
 採用スルコトヲ得
 第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ何等ノ名稱ヲ以テスルモ在外指定學校ノ職員ニ採用スルコ
 トヲ得ス
 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニアラス
 二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘ
 サルモノ
 三 懲戒ニ依リ免官若ハ免職ニ處セラレタル後二箇年ヲ經過セサル者
 四 教員免許狀視察ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經過セサル者
 五 明治二十九年法律第八十號ニ依リ在留禁止ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ解禁後二箇年ヲ經過
 セサル者
 六 性行不良ト認ムヘキ者
 第八條 在外指定學校職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然其ノ職ヲ解カレタルモノト
 ス
 一 教員免許狀視察ノ處分ヲ受ケタルトキ

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 三 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ
 四 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ
 第九條 居留民國ノ設立ニ係ルモノヲ除ク外在外指定學校ノ職員ノ採用解職增俸減俸其ノ他ノ
 進退ヲ爲スニハ學校ノ設立者又ハ其ノ代表者ニ於テ所管領事官ノ認可ヲ受ケヘシ但シ第十九條
 ノ命令ニ基キ解職スル場合ハ此ノ限ニアラス
 第十條 居留民國ノ設立ニ係ル在外指定學校ノ學校長教諭助教諭訓導舎監及書記ニシテ左ノ各
 號ノ一ニ該當スルトキハ所管領事官ハ之ニ休職ヲ命スルコトヲ得但シ委任文官ト同一ノ待遇ヲ
 受ケル者ニ就キテハ外務文部兩大臣ノ指揮ヲ受クヘシ
 一 學校編制ノ變更事務ノ伸縮等ニ依リ其ノ人ヲ要セサルトキ
 二 傷疾若ハ疾病ニ罹リ職務ヲ行フニ妨ケアルトキ
 三 刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ
 第十二條 居留民國ノ設立ニ係ル在外指定學校ノ學校長教諭助教諭訓導舎監及書記ニシテ戰時
 又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルトキハ當然休職者トス
 第十三條 休職ノ期間ハ第十條第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ二箇年トシ同條第三號ノ場合ニ
 在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ第十一條ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後向三箇
 月トス
 休職ノ期間滿チタルトキハ當然退職者トス
 第十三條 休職者ハ職務ニ從事セス及俸給ヲ減セラレ又ハ全ク之ヲ受ケサルノ外總テ本職者ト異

ルコトナシ

第十四條 居留民國ノ設立ニ係ル在外指定學校ノ職員ニシテ服務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ所管領事官ハ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス

第十五條 懲戒ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス

第十六條 居留民國ノ設立ニ係ル在外指定學校職員ニ對シ懲戒處分ヲ行フトキハ本人ニ處分書ヲ交付スヘシ

第十七條 減俸ハ一箇月以上一箇年以下俸給月額三分ノ一以下ヲ減ス

第十八條 第十四條乃至第十七條ノ規定ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル在外指定學校ノ職員ニハ之ヲ適用セス

第十九條 第十四條規定以外ノ在外指定學校ノ職員ニシテ同條ニ該當セル所爲アリト認メタルトキハ所管領事官ハ學校ノ設立者又ハ其ノ代表者ニ對シ其ノ解職ヲ命スルコトヲ得

第二十條 領事官ハ第十四條又ハ前條ニ依リ免職又ハ解職セラレタル者アルトキハ其ノ氏名、職名及事由ヲ具シ外務文部兩大臣ニ報告スヘシ但シ免職又ハ解職セラレタル者ニシテ教員免許狀ヲ有スルモノナルトキハ其ノ免許狀ノ寫ヲ添付スヘシ

第二十一條 在外指定學校職員ノ職務並ニ服務及俸給ニ關スル規程ハ所管領事官之ヲ定メ外務文部兩大臣ニ報告スヘシ

第二十二條 在外指定學校職員ノ旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ學校ノ設立者若ハ其ノ代表者

之ヲ定メ所管領事官ニ報告スヘシ

第二十三條 在外指定學校ハ居留民國法ニ依ル監督ノ外所管領事官及外務文部兩大臣ノ監督ヲ受クヘキモノトス

第二十四條 在外指定學校ニシテ第三條ノ要件ヲ失ヒ又ハ學校ノ設立者若ハ其ノ代表者ニ於テ外務文部兩大臣又ハ所管領事官ノ爲ス命令ニ違背スルトキハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第二十五條 本令ニ依リ學校ノ設立者若ハ其ノ代表者ヨリ外務文部兩大臣ニ提出スヘキ書類ハ總テ所管領事官ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○文部省令第二十一號

在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料等支給規則左ノ通相定ム

明治三十八年十一月八日

文部大臣久保田讓

在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料等支給規則

第一條 明治二十五年文部省令第一號公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則ハ第七條第二十五條ヲ除ク外在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料等ノ支給ニ關シ之ヲ準用ス

第二條 在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法第二條及府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十條第一項ニ依リ退職給與金ヲ受クヘキ者ハ給與金請求書ヲ作り在職中ノ履歷書ヲ添付シ退職ノ際勤務セシ學校所在地ヲ管轄スル領事官ニ差出スヘシ

領事官ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ證據書類ヲ添ヘ文部大臣ニ差出スヘシ

○農商務省令第二十三號

耕地整理ニ關シ地方長官ニ委任ノ件左ノ通定ム

明治三十八年十一月四日

農商務大臣男爵清浦奎吾

第一條 耕地整理法第二十六條ノ規定ニ依ル整理施行ノ認可ニ關スル件ハ之ヲ整理地區ノ屬スル地ノ地方長官ニ委任ス

第二條 地方長官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ整理委員ヲシテ整理事業ニ關スル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第三條 地方長官必要ト認ムルトキハ整理事業ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條 地方長官第一條ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク農商務大臣ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ

第五條 第一條ノ規定ハ本令施行前ニ爲シタル整理施行ノ認可申請ニハ之ヲ適用セス

第六條 本令ハ明治三十八年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

○農商務省令第二十四號

明治三十三年農商務省令第三號農會令施行規則左ノ通改正ス

明治三十八年十一月六日

農商務大臣男爵清浦奎吾

農會令施行規則

第一條 農會設立ノ許可申請書ニハ農會令第五條又ハ第六條ニ定メタル條件ヲ具備スルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二條 農會設立ノ許可アリタルトキハ遲滞ナク經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ議決シ行政廳ノ認可ヲ申請シ且役員代表者及副代表者ヲ置キタルモノニ在リテハ副代表者ヲ選舉スヘシ農會令第三十條第三項ノ規定ニ依リ會則ノ認可アリタルトキ亦同シ

第三條 經費ノ豫算及分賦收入ノ方法又ハ會則ノ變更認可申請書ニハ其ノ變更ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第四條 農會ニ於テ會則ノ施行又ハ事業ノ執行ニ關スル規定ヲ設ケタルトキハ其ノ都度行政廳ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五條 役員又ハ清算人ノ選任又ハ解任アリタルトキハ遲滞ナク其ノ氏名ヲ行政廳ニ届出ツヘシ

第六條 市町村農會ノ會員ハ代理人ニ依リ議決權ヲ行フコトヲ得但シ會員ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

第七條 農會令第二十六條又ハ第二十七條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲シタルトキハ郡長ハ地方長官ニ、地方長官ハ農商務大臣ニ其ノ事由ヲ具シテ遲滞ナク之ヲ報告スヘシ

第八條 農會ノ設立又ハ解散アリタルトキハ郡長ハ、地方長官ニ、地方長官ハ農商務大臣ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ農會ノ區域ニ變更アリタルトキ亦同シ

第九條 農會ノ設立又ハ解散アリタルトキハ行政廳ハ之ヲ告示スヘシ第十條ニ依リ届出ヲ受ケタルトキ亦同シ

第十條 既設農會農會令第五條又ハ第六條ノ條件ヲ具備スルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添附シテ遲滞ナク其ノ旨ヲ行政廳ニ届出ツヘシ其ノ條件ヲ具備スルニ至リタルトキ亦同シ

第十一條 前條ノ規定ニ依リ届出ヲ受ケタルトキハ郡長ハ、地方長官ニ、地方長官ハ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條 農會令中部トアルハ島司ヲ置キタル島嶼市トアルハ北海道沖繩縣ノ區、町村トアルハ町村組合及町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル町村ニ準スヘキ地ヲ包含ス
農會令及本則ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊豆七島中島司ヲ置カサル島嶼ニ於テハ東京府知事、北海道ニ於テハ支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ
第十三條 農會ヨリ書面ヲ農商務大臣ニ差出ストキハ地方長官ヲ經由スヘシ

○農商務省令第二十五號

明治三十三年農商務省令第二號農會補助金交付規則中左ノ通改正ス

明治三十八年十一月六日

農商務大臣男爵清浦奎吾

第二條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ農商務大臣必要ト認ムルトキハ府縣農會ニ加入ヲ要セサル郡農會ニ之ヲ交付スルコトヲ得
第三條中郡農會トアルヲ農會ニ改ム

第四條 農會カ補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ二月末日迄ニ地方長官ヲ經由シ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

一 補助ヲ受ケムトスル年度ノ事業方法書

二 申請ノ理由ヲ記載シタル書面

郡農會ニ在リテハ前項書類ノ外其ノ農會ノ收支豫算書及財産目錄ヲ添附スルコトヲ要ス

〔參照〕

農商務省令第二號農會補助金交付規則(明治三十三年三月十日)抄録
第二條 補助金ハ北海道農會及府縣農會ニ之ヲ交付ス但正當ノ理由ニ因リ北海道農會若ハ府縣農會ヲ組織セス又ハ之ニ加入セサル郡農會ニ之ヲ交付スルコトアルヘシ

第三條 補助金ノ交付ヲ受ケタル北海道農會又ハ府縣農會ハ必要ナリト認ムルトキハ其農會ヲ組織スル郡農會ニ補助金ヲ支給スルコトヲ得

第四條 農會カ補助金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ三月五日マテニ地方長官ヲ經由シ之ヲ農務大臣ニ差出スコトヲ要ス

一 補助ヲ受ケントスル年度ノ事業方法書

二 財産目錄

三 申請ノ理由ヲ記載シタル書面

四 北海道農會及府縣農會ニ在リテハ其農會ヲ組織スル郡農會ノ收支豫算書 郡農會ニ在リテハ其農會ノ收支豫算書

○農商務省令第二十六號

國有林野主產物年期賣拂規則左ノ通定ム

農商務大臣男爵清浦奎吾

明治三十八年十一月十一日

國有林野主產物年期賣拂規則

第一條 國有林野主產物ノ年期賣拂ハ本則ニ依リ之ヲ行フ

第二條 年期賣拂ハ左ノ場合ニ限ル

一 特別ノ設備ヲ施スニ非サレハ森林ノ更新計畫ニ伴フ產物ノ利用ニ困難ナルトキ

二 特別ノ設備ヲ施ストキハ著シク產物利用ノ程度ヲ増進シ得ヘキトキ

第三條 賣拂ノ年期ハ十箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 年期賣拂ヲ受ケムトスル者ハ事業要領書ヲ添附シタル願書ヲ作り之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

事業要領書ニハ出願ノ事由、拂受年限、主產物ノ種類、數量、單價及斫伐箇所、事業施行ノ方法、事業ニ要スル特別ノ設備並事業費ニ關スル概要ヲ記載スヘシ

大林區署長ハ出願者ヲシテ指定ノ期間内ニ事業計畫書及計畫圖面ヲ提出セシムルコトヲ得

第五條 年期賣拂ノ出願ニ對シ許可アリタルトキハ買受人ハ大林區署長ノ指定セル期間内ニ契約擔任官吏ト共ニ年期賣拂契約書ヲ作り雙方署名捺印シテ各壹通ヲ領收シ置クヘシ

第六條 買受人ノ代理人ハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ大林區署長ニ差出スヘシ
二人以上共同シテ賣拂ヲ受ケムトスルトキハ代理人ヲ定メ大林區署長ニ届出ツヘシ

第七條 年期賣拂契約ハ不特定物ノ賣買タルヘシ

第八條 年期賣拂ノ許可ヲ受ケタル者契約保證金ヲ納付スヘキ場合ニ於テ大林區署長ノ指定セル期間内ニ之ヲ納付セサルトキハ大林區署長ハ年期賣拂ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

前項ニ依リ取消ヲ爲シタル場合ニ於テハ違約金トシテ年期間ヲ通シタル出願代金百分ノ十二當ル金額ヲ徵收スヘシ

第九條 年期賣拂ノ許可ヲ受ケタル者大林區署長ノ指定セル期間内ニ契約ノ締結ヲ爲ササルトキハ大林區署長ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

前項ニ依リ取消ヲ爲シタル場合ニ於テ契約保證金ハ之ヲ還付セス

第十條 賣買代金ノ單價ハ用材樹種ニ在リテハ、斫伐箇所及樹種ノ異ル毎ニ、薪炭樹種ニ在リテハ各樹種ヲ通シテ斫伐箇所ノ異ル毎ニ單位數量ニ相當スル平均價格ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ品質、形狀、運搬等ノ關係著シク異同アルトキハ更ニ細別シテ單價ヲ定ムヘシ

第十一條 年期賣拂契約締結後買受人ニ於テ事業計畫書ニ記載シタル計畫ヲ變更シタルトキハ直ニ大林區署長ニ届出ツヘシ但シ事業ニ要スル特別ノ設備ヲ變更セムトスルトキハ豫メ大林區署長ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條 各年度引渡スヘキ主產物ノ種類、數量及斫伐箇所ハ大林區署ノ營林計畫ニ依リ之ヲ定ム

前項ノ營林計畫ヲ變更スルコトアルモ買受人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第十三條 買受人ハ當該官吏ノ測定シタル主產物ノ數量ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス
買受人ハ前項ノ測定ニ立會ヲ爲スコトヲ得

第十四條 主產物ノ根株ハ特別ノ契約ニ依ルモノノ外賣拂外トシ數量ノ計算ニ加ヘサルモノトス

第十五條 大林區署長ハ引渡スヘキ主產物ノ種類、數量、斫伐箇所並代金及其ノ納付期限其ノ他契約履行ニ必要ナル事項ヲ記載シタル通知書ヲ作り其ノ都度之ヲ買受人ニ送付スヘシ
買受人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ納付期限内ニ代金ヲ納付スヘシ

第十六條 主產物ノ引渡ハ代金納付ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 主產物ノ引渡ハ買受人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
買受人引渡ニ立會ハサルトキト雖當該官吏其ノ手續ヲ爲シタルトキハ引渡ヲ終了シタルモノト看做ス

第十八條 買受人引渡ヲ受ケタルトキハ領收證ヲ作り之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ
斫伐箇所其ノ面積、主產物ノ數量、品質ニ錯誤アリ又ハ主產物ニ隠レタル瑕疵アルモ買受人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第十九條 主產物搬出期間ハ主產物ノ引渡アリタル月ヨリ起算シ三箇年以内ニ於テ大林區署長之ヲ定メ引渡ノ際之ヲ買受人ニ通知スヘシ

前項ノ期間内ニ搬出ヲ爲スコト能ハサルトキハ買受人ハ大林區署長ノ指定ニ從ヒ其ノ斫伐箇所

全區域内ニ於ケル造林上ノ障礙物ヲ掃除スルコトヲ條件トシ一箇年以内ノ延期ヲ出願スルコトヲ得

延期期間満了後一箇年以内ニ掃除ノ要求ナキトキハ買受人ハ前項掃除ノ義務ヲ免ルルモノトス

第一項延期ノ出願ハ搬出期間満了一箇月前ニ之ヲ爲スヘシ

第二十條 買受人物件ノ搬出又ハ造林障礙物ノ掃除ヲ終リタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ買受人ハ搬出未済ノ物件ヲ抛棄シタルモノト看做ス

一 延期ノ出願ヲ爲サス又ハ延期ノ許可ヲ得スシテ搬出期間満了シタルトキ

二 延期期間満了シタルトキ

第二十二條 大林區署長ニ於テ買受人ノ抛棄シタル物件カ造林上著シキ障礙トナルノ虞アリト認メタルトキハ買受人ハ大林區署長ノ指定ニ從ヒ自己ノ費用ヲ以テ其障礙物ヲ除却スヘシ但シ搬出期間ハ其ノ延期期間ニ滿了後一箇年以内ニ大林區署長カ除却ノ要求ヲ爲ササルトキハ買受人ハ其ノ義務ヲ免ルルモノトス

第二十三條 大林區署長ハ造林上必要アリト認メタルトキハ買受人ニ對シ伐木運搬其ノ他ノ事項ニ付其ノ方法ヲ指定シ又ハ制限ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 法令ノ結果ニ因リ又ハ公用若ハ公益ニ關スル原因ニ因リ主産物ノ斫伐ヲ制限、停止若ハ廢止シ又ハ其ノ時期ヲ變更スルノ必要ヲ生シタル爲大林區署長カ契約ヲ變更シ又ハ解除スルモ買受人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

前項ニ依ル變更又ハ解除ノ爲代金納付済ニ係ル買受物件ニシテ斫伐又ハ搬出ヲ爲スコトヲ得サ

ルモノヲ生シタルトキハ相當代金ヲ還付シ其ノ物件ハ政府ノ所有トス

第二十五條 年額賣拂契約ニ因リ生スル權利又ハ搬出未済ノ物件ハ大林區署長ノ認可ナクシテ他人ニ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第二十六條 左ノ場合ニ於テハ大林區署長ハ年額賣拂契約ヲ解除スヘシ此ノ場合ニ於テハ搬出未済ノ物件及契約保證金ハ政府ノ所有トス契約保證金ヲ徵收セザリシトキハ違約金トシテ契約年期間ヲ通シタル總賣拂代金百分ノ十二當ル金額ヲ徵收スヘシ

一 引渡スヘキ主産物ニ對シ納付期限内ニ代金ヲ納付セザルトキ

二 前條ノ規定ニ違背シタルトキ

三 第十九條又ハ第二十二條ノ場合ニ於テ造林障礙物掃除又ハ除却ノ要求ヲ受クルモ買受人ニ於テ其ノ義務ヲ履行セザルトキ

四 買受人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ大林區署長ニ於テ契約ノ目的ヲ達シ難シト認メタルトキ

前項搬出未済ノ物件ニ付テハ大林區署長ハ相當代金ヲ還付スヘシ

第二十七條 國有林野内ニ於ケル設備ニ付テハ買受人ハ其ノ使用ヲ終リタル後又ハ契約ノ解除アリタル場合ニ於テ大林區署長ノ指定シタル期限内ニ土地ヲ原狀ニ回復シ設備ヲ收去スルノ義務ヲ負フ但シ特ニ契約アルモノ又ハ大林區署長ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項收去期限内ニ收去ヲ終ラサルトキハ其ノ設備ハ總テ政府ノ所有トス

買受人ニ於テ第一項ノ義務ヲ怠リタル爲造林上障礙ヲ生スルノ虞アリト認メタルトキハ大林區署長ハ原狀回復ニ要スル費用ヲ算定シ其ノ二倍ノ金額ヲ違約金トシテ徵收ス

第二十八條 年額賣拂ニ附帶スル國有林野ノ使用又ハ貸付ニ付テハ大林區署長ニ於テ契約ノ變更

又ハ解除ニ伴ヒ其ノ使用ヲ禁止シ若ハ貸付ヲ解除スルコトアルモ買受人ハ異議ヲ述ラルコトヲ得ス

第二十九條 本則ニ依ル契約ノ解除ハ將來ニ向テノ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第三十條 契約保證金ハ買受人ニ屬スル總テノ義務ヲ履行シ終ル迄之ヲ還付セス

第三十一條 本則ニ依ル年期ノ計算ハ政府ノ會計年度ニ依ル

○逓信省令第七十四號

臨時在韓國帝國領事館附海事局職員手當ノ給與ニ關スル手續ハ明治三十四年逓信省令第十九號在外國郵便及電信局官吏手當給與細則ノ規定ヲ準用ス

明治三十八年十一月二日

逓信大臣大浦兼武

○逓信省令第七十五號

明治三十七年四月逓信省令第三十四號在外通信官署官吏增加在勤手當給與年額表ヲ左ノ通改正シ本月十六日ヨリ施行ス

明治三十八年十一月十一日

逓信大臣大浦兼武

增加在勤手當給與年額表

任所	局長	通信長	通信技手	通信手
東京	二四〇	一〇	八	五
元山	一〇八	六〇	二	二
仁川	三〇〇	六	六	四

嶺南浦	一〇八	六〇	二	二
城津	一〇八	六〇	二	二
平壤	一四四	七三	四	八
義州	一四四	七三	四	八
安州	一四四	七三	四	八
永清	二〇〇	六六	四	五
開城	二〇〇	六六	四	五
新義州	一四四	七三	四	八
牛莊	三〇〇	一六八	一〇八	

○逓信省令第七十六號

明治三十年十月逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改正シ本月十六日ヨリ施行ス

明治三十八年十一月十一日

逓信大臣大浦兼武

「佐賀大村間」ノ次ニ左ノ通加フ

熱海小田原間	金二十五錢	金十五錢
熱海湯本間	金二十五錢	金十五錢
熱海宮ノ下間	金二十五錢	金十五錢
熱海國府津間	金二十五錢	金十五錢

前項ノ卷煙草ニハ煙草專賣局ノ定メタル證票ヲ貼付ス
第二條 外國製造紙卷煙草ニシテ包裝若ハ函ノ裝置ナキモノニ對シテハ葉煙草收納所ノ指示スル
數量毎ニ包裝ヲ施スヘシ
明治三十八年十二月十九日
大藏大臣男爵曾禰荒助

(様式)

申告書

何國製

一 葉卷煙草

何々

一 紙卷煙草

何々

右申告候也

明治 年 月 日

何本

何本

何本

營業場所在地
煙草販賣者 氏 名

葉煙草收納所長宛

○大藏省令第五十四號

明治十九年十月十日大藏省令第三十號整理公債取扱順序中左ノ通改正ス

明治三十八年十二月二十日

第十七條 削除

第十八條 第一項ヲ左ノ如ク改ム

整理公債償還ノ爲抽籤ヲ執行シタルトキハ日本銀行本店ヨリ官報及五種以上ノ新聞紙ヲ以テ當
籤證書ノ金額種類記號番號枚數等ヲ三日以上廣告スヘシ

(参照)

大藏省令第三十號整理公債取扱順序(明治十九年十月十九日)抄録

第十七條 整理公債條例第九條但書ニ據リ該公債償還金額ノ告示アルトキハ日本銀行本店ハ抽籤ノ期日及償還ノ期限ヲ五
種以上ノ新聞紙ヲ以テ三日以上廣告スヘシ

第十八條 前條ノ抽籤ヲ執行シタルトキハ日本銀行本店ヨリ速ニ前條同様ノ手續ヲ以テ當籤證書ノ金額種類記號番號枚數
等ヲ廣告スヘシ

○大藏省令第五十五號

第一條 明治三十八年十二月二十日大藏省令第八號第四回國庫債券發行規程第十五條ノ規定ニ依ル本債券ノ
交付ハ明治三十八年十二月三十一日限之ヲ廢止ス但シ同期日マテニ假債券紛失又ハ滅失ノ爲代
リ交付ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シテハ本債券ヲ交付ス

第二條 本債券ト引換ヲ爲スコトヲ得サリシ第四回國庫債券ハ紛失、滅失及償還ニ關シテハ之
ヲ無記名本債券ト看做シ取扱フモノトス

第三條 本債券ト看做サレタル第四回國庫債券ニ對シ償還元金ヲ仕拂フ場合ニハ其ノ償還當期
分ノ利子ハ該債券ニ對シ月割ヲ以テ仕拂フモノトス

第四條 明治三十七年七月七日大藏省令第三十三號ハ第四回國庫債券ニハ之ヲ適用セス但シ本令施行前
ニ種類交換ノ請求ヲ爲シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年十二月二十日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第五十六號

煙草專賣法第六條ニ基キ東京葉煙草收納所外十七收納所管内ニ於ケル明治三十九年煙草耕作種類
段別左ノ通之ヲ定ム

明治三十八年十二月二十七日

大藏大臣男爵曾禰荒助

